

横浜市こども・子育て基本条例に基づく
令和7年度のこどもの意見表明に関する取組状況について

1 趣旨

横浜市こども・子育て基本条例（令和7年4月1日施行、以下「条例」という）第14条の規定に基づき、令和7年度の市民局における、こどもの意見表明に関する取組状況等について報告します。

2 条例における位置づけ

条例において、こども・子育てに関する施策を推進するに当たっては、こどもが、社会を構成する一員として、その年齢及び発達の程度に応じて、意見を表明する機会を確保し、その意見を施策に反映させるよう努めること、こども・子育てに関連するあらゆる分野における施策を講ずるに当たっては、こどもの視点を重視するよう努めること等が市の責務として位置付けられています。（第5条）

また、市長は、毎年、こども・子育てに関する施策へのこどもの意見の反映の状況等について、市会に報告することとされています。（第14条）

3 報告の範囲

今回報告する取組の範囲は、施策・事業・取組への反映を主な目的として、アンケートやワークショップ、会議、意見公募、インタビュー・ヒアリングなど、こどもから直接意見を聴いているもののうち、次の内容に該当するものとしています。

- 本市（指定管理者・委託事業者を含む）が主催・共催している
- こども・若者（未就学児から20代程度まで）が意見を聴く対象に含まれている
- すべての市民等を対象とする取組については、こども・若者から意見を聴くための工夫を行っている

（例）・難しい漢字や用語を使わずに、一般向けとは別に、こども・若者にわかりやすく書かれた資料を使っている
・特にこども・若者に特化した広報PRを行っている

4(1) 市民局の詳細報告

取組①

ボランティア活動に関するヒアリング

【地域活動推進課】

取組内容

若者・大学生の地域活動への参加促進のため、ボランティア参加経験のある大学生から体験談を聞いた。



対象

大学生（10人）

実施時期

令和8年1月

主な意見と活用方法等

〈主な意見〉

・地域活動に関心はあるものの、参加への敷居の高さや、継続的な参加を求められるのではないかという不安が、参加へのハードルになっている。

〈活用方法等〉

・「横浜地域活動・ボランティア情報サイト よこむすび」において、一度限りの参加が可能な活動であることが伝わる掲載内容の工夫や、活動の様子が分かる写真掲載の充実など、参加のしやすさや活動の魅力が伝わるサイトづくりを進める。

4(1) 市民局の詳細報告

取組②	第6次横浜市男女共同参画行動計画に係る、こどもからの意見聴取 【国際平和・ダイバーシティ推進課】	
取組内容	①大学のジェンダーに関する講義やキャリア教育プログラムにおいて、男女共同参画に関する意見交換を実施した。 ②男女共同参画センター横浜南主催の「ヨコハマジェンダー平等アクションゼミ」において、市の男女共同参画施策に関する提案を受けた。	
対 象	①大学生、大学院生（369人） ②おおむね15～29歳の人（13人）	
実施時期	①令和7年6月～10月 ②令和7年9月～12月	
主な意見と活用方法等	<主な意見> ・ 固定的な性別役割分担意識により、違和感や不快感を覚えた経験がある ・ アンコンシャス・バイアスの解消に向け、広報・啓発が必要 <活用方法等> ・ 第6次横浜市男女共同参画行動計画における広報・啓発及び若い世代の意識醸成に関する取組へ反映した。	



4(2) 区の詳細報告(青葉区)

取組 ①

青葉区「GREEN×EXPO 2027」PRプロジェクト【区政推進課】

取組内容

若年層に向けた横浜グリーンエキスポの機運醸成を進めるため、区内県立高校3校の現役高校生で構成されるプロジェクトチームを立ち上げた。

グループに分かれて、機運醸成に向けた意見・アイデアを出し合ってもらい、開催1年前記念イベントの企画や、オリジナル動画の制作などのPR施策に繋げた。



対 象

高校生（23人）

実施時期

令和7年10月～令和8年3月

主な意見と 活用方法等

開催1年前記念イベントのスタンプラリーについて、「スタンプラリーの台紙に、花や木、動物を使うと環境のイメージにつながるのではないか」という意見を台紙のデザインに反映した。

「SNSで動画を放映すれば若者へのPRになるのではないか」という意見を踏まえ、高校生にオリジナル動画を制作いただき、区公式SNS「あおばGREENDAY」で配信した。

「動画には、トウクントウクを登場させたり、コントの要素を入れると面白い」という意見を踏まえ、動画に反映した。

4(2) 区の詳細報告(戸塚区)

取組 ②

小学校と連携したインクルーシブ遊具の設置【戸塚土木事務所】

取組内容

平戸小学校と連携し、インクルーシブ遊具について学び、考える授業を全4回実施した。第1・2回の授業では、インクルーシブの考え方や事例、さまざまなインクルーシブ遊具について学んだ。

あわせて、戸塚土木事務所が提示した複数の遊具候補について、それぞれの長所・短所を子どもたちの視点から検討し、意見を集約したうえで、平戸第一公園に設置するインクルーシブ遊具の選定を行った。

第3回の授業では、選定した遊具の設置工事を見学し、工事の過程について理解を深めた。第4回の授業では、地域住民を招いて遊具の設置セレモニーを開催し、児童や地域の方々とともに完成を祝った。

対 象

平戸小学校6年生(約40人)

実施時期

令和7年7月～令和8年2月
(全4回授業：令和7年6月26日、7月16日、令和8年1月27日、2月10日)

主な意見と 活用方法等

授業内で検討した結果、「障がいのある方にとって安心できる空間となるだけでなく、こどもたちにとってもよじ登ったり遊んだりできる空間となること」や、「ジャングルジムのようによじ登る、ぶら下がる、コロコロパネルを叩くなど、多様な遊び方ができること」、さらに「青色が目優しいこと」などの意見が挙がったため、イグルージムを採用した。

3種の遊具の特徴を比較討論し、こども達自身で設置する遊具を決定した。



5 市民局の取組状況

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	ボランティア活動に関するヒアリング	地域活動推進課	大学生（10人）	令和8年1月	学生からは、地域活動に関心はあるものの、参加への敷居の高さや、継続的な参加を求められるのではないかという不安が参加へのハードルとなっているとの意見があった。 意見を踏まえ、「横浜地域活動・ボランティア情報サイト よこむすび」において、一度限りの参加が可能な活動であることが伝わる掲載内容の工夫や、活動の様子が分かる写真掲載の充実など、参加しやすさや活動の魅力が伝わるサイトづくりを進める。
2	第6次横浜市男女共同参画行動計画に係る、こどもからの意見聴取	国際平和・ダイバーシティ推進課	①大学生、大学院生（369人） ②おおむね15～29歳の人（13人）	①令和7年6月～10月 ②令和7年9月～12月	「固定的性別役割分担により、違和感を覚えたり、不快な思いをしたことがある。」「アンコンシャスバイアスの解消のため、広報・啓発が必要。」などの意見があった。 意見を踏まえ、第6次横浜市男女共同参画行動計画における広報・啓発及び若い世代の意識醸成に関する取組へ反映した。
3	集会広聴事業『市長と語ろう！』における市民からの意見聴取	広聴相談課	中学生（4人）、高校生（9人）	令和7年12月6日 令和7年12月15日	【南区】 地域における防災意識・減災力の向上に関する意見、瀬谷区での開催ではGREEN×EXPO 2027開催に向けた取組に関する意見があった。 意見を踏まえ、次世代の地域 防災を支える人材(中学生)育成プログラムの事業費と地域防災拠点の実効性向上 に向けた分析に係る検討費を計上した。 【瀬谷区】 GREEN×EXPO 2027開催に向けた取組に関する意見があった。 意見を踏まえ、「STYLE PARTNERS」における高校生など若い世代との創発機会の確保に取り組んでいく。

5 市民局の取組状況

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
4	人権に関する市民意識調査の調査対象年齢の拡大	人権課	市内在住15歳以上の男女5,000人(135人)	令和7年7月25日～8月22日	人権問題に関する知識や情報の収集源として、15歳～17歳の回答者全員が「学校の授業」を選択した。また、今後横浜市が充実させていく取組として、15歳～17歳の回答者の8割が「学校での教育」を選択した。 関係課と情報共有・連携をしながら、人権啓発の手法を検討し、啓発を推進していく。 また、令和8年度改訂の横浜市人権施策基本指針に市民意識調査の調査結果を反映予定。
5	横浜ピース・サークル	国際平和・ダイバーシティ推進課	高校生、大学生、専門学生ほか(63人)	令和8年3月8日	サステナブルなグリーン社会と平和を実現するために必要な姿勢やアクションとして、「教育・知る機会の重要性」「多様な人が共に動ける仕組みづくり」等のメッセージが示された。 対話の成果を国連に報告するとともに、GREEN×EXP02027において、若者の声として発信予定。
6	小学生向け国際平和学習プログラム 実施後アンケート	国際平和・ダイバーシティ推進課	小学生(1,487人)	令和7年4月～令和8年3月	「SDGsや”子どもSDGs”について」の項目でのプログラムに対する意見として、「自分に何ができるか考えることができた」では、70%から「はい」との回答があった。 意見を踏まえ、自己変容を促せるような授業構成をより検討していく。

6 区の取組状況(鶴見区)

取 組 ①	横浜グリーンエキスポPRブースやTSURUMI GO GREEN宣言でのアンケート収集【区政推進課】
取組内容	区民まつり等のイベントにおいて、横浜グリーンエキスポの認知度等に関するシールアンケートを実施した。 参加した人には景品を渡すことで、こどもの参加を促し、エキスポに対する反応を確認した。 併せて、日常生活で取り組む脱炭素行動を宣言してもらう「TSURUMI GO GREEN宣言」について、オンラインで参加できるキャンペーンを実施し、アイデアや意見を収集した。 
対 象	小学生、中学生、高校生(2,652人)
実施時期	通年
主な意見と活用方法等	横浜グリーンエキスポの認知度や、家庭でできる脱炭素行動の工夫などについて把握し、令和8年度の事業内容に反映した。

6 区の取組状況(鶴見区)

取組②

第5期鶴見区地域福祉保健計画策定に係るこどもからの意見聴取【福祉保健課】

取組内容

ケアプラザまつり等で参加したこどもに、シールアンケートで地域福祉に関する意見を聴取した。

地区懇談会にこどもが参加し、地域福祉に関して意見交換を実施した。



対象

小学生、中学生(約960人)

実施時期

令和7年6月～令和8年1月

主な意見と活用方法等

地区別計画の取組の内容に反映や関連部署へ共有し対応依頼。
アンケート:結果集約後、地区懇談会で共有している。
懇談会:懇談会を設定し取組に反映させていることを説明している。

6 区の取組状況(鶴見区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	地区センター探索プロジェクト「地区センターはどんな場所？」	地域振興課(矢向地区センター)	小学生(32人)	令和7年10月	3日間午後の授業の時間をあて、地区センター2階や地下1階を探検しながら利用者に質問した。地区センターは児童にとって「もうひとつの居場所」であることを確認して今後の利用につなげた。
2	施設実施事業こども化学教室	地域振興課(駒岡地区センター)	小学生(12人)	令和7年7月25日	「楽しかった」「またこのような実験をやってほしい」「難しかった」「今度はスライムを作ってみたい」という、子供達の感想や意見を今年度にもっと楽しんでもらうように取り入れる。
3	こどもの本総選挙	地域振興課(潮田地区センター)	小学生(約100人)	令和7年7月～8月	回収した投票用紙は、総選挙事務局にそのまま送付した。 後日、発表されたトップ10を館内に掲示し、該当する図書を受付横に「こどもの本総選挙トップ10」コーナーを設置して配架した。
4	0歳からのコンサートにおける参加者からの感想募集	地域振興課(鶴見区民文化センター)	0歳から小学1・2年生(82人)	令和7年7月19日	「楽しかった」「また来たい」という声が多く、自身の手で貼ることで満足感を感じていたようだ。 今後実施する際の参考とする。
5	望遠鏡作りワークショップにおける参加者からのアンケート収集	地域振興課(鶴見区民文化センター)	小学生、中学生(42人)	令和7年7月26日	望遠鏡作りの楽しさとともに、天体への興味がわいたという声が多かった。夏休みの自由研究にするとという声もあった。 今後実施する際の参考とする。

6 区の取組状況(鶴見区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
6	鶴見区環境行動推進事業における「つるみ・ちゅうみエコフェスタ(イベント)」参加者へのアンケート	区政推進課	未就学児、小学4～6年生(193人)	令和7年10月4日、10月5日	満足度:満足・やや満足が91% 「3D映像や海の先生にまた参加したい」という意見を踏まえて、8年度の実施内容検討時に反映した。(継続)
7	横浜グリーンエキスポPRブースやTSURUMI GO GREEN宣言でのアンケート収集	区政推進課	小学生、中学生、高校生(2,652人)	通年	横浜グリーンエキスポの認知度や、家庭でできる脱炭素行動の工夫などについて把握し、令和8年度の事業内容に反映した。
8	区制100周年ロゴマーク投票	区政推進課	3歳児とその兄弟(約30人)	令和7年11月20日ほか	3パターンのデザイン案より自由に回答してもらった。投票結果に反映するほか、アンケートに参加すること自体が100周年のPRになるほか、アンケート時の反応が100周年のPRの参考となった。
9	銭湯体験イベントの開催	区政推進課	未就学児、小学生(約30人)	・令和7年11月22日 ・令和7年11月30日	実施後のアンケートでは、薪をくべる体験ができたことなどにより、「楽しかった。また家族と銭湯に来たい」といった声が聞かれた。 今後、区の魅力発信やイベントの企画などの参考としていく。

6 区の取組状況(鶴見区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
10	第5期鶴見区地域福祉保健計画策定に係るこどもからの意見聴取	福祉保健課	小学生、中学生(約960人)	令和7年6月～令和8年1月	地区別計画の取組の内容に反映や関連部署へ共有し対応依頼。 アンケート:結果集約後、地区懇談会で共有している。 懇談会:懇談会を設定し取組に反映させていることを説明している。
11	【矢向地域ケアプラザ】 矢向中学校2年生職場体験	福祉保健課	中学生(5人)	令和8年1月16日	地域とつながるためにどのような活動をしているのかを学ぶことができた。 中学生から出た意見を第5期鶴見区地域福祉保険計画策定の参考に使用した。
12	【馬場地域ケアプラザ】 地域と何ができる会?	福祉保健課	小学生、中学生(約60人)	令和7年7月18日	・集いの場のことを自分たちも発信した方がいい ・集いの場に参加した時、挨拶ができるようになった。 ・清掃活動に参加する
13	【馬場地域ケアプラザ】 LCT!(レッツクリーンツルミ) 地域清掃活動打ち合わせ	福祉保健課	中学生(約30人)	令和7年7月4日 令和7年10月7日	・活動範囲を広げたい ・開会式を中学校でおこない、みんな役割をもつ

6 区の取組状況(鶴見区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
14	学童保育向け食品衛生出前講座における手洗いタイミングのアンケート	生活衛生課	小学生(57人)	・令和7年11月14日 ・令和7年11月26日	こども達に手洗いを行うタイミングについてアンケートを実施した結果、帰宅後の手洗いより、給食当番や食事の前、トイレ利用後の手洗いに対する意識が低い結果だった。 アンケートで判ったこどもの行動傾向を感染症発生時の拡大予防指導や、翌年度以降の講座に活かしていく。
15	学園祭食中毒予防講習会受講者アンケート	生活衛生課	高校生(191人)	令和7年8月27日	講習会受講者へのアンケート結果から、視覚的に分かりやすい資料に加え、実演等も交えた内容に効果があったことがわかった。 今後期待する講習内容も収集することができ、次年度の講座内容に活かしていく。
16	寄り添い型学習支援事業における生徒からの意見聴取	生活支援課	小学5・6年生、中学生、高校生等(162人)	(通年の学習支援事業利用者) ・令和7年度当初(もしくは利用開始時) ・令和8年3月(年度末) (年3回開催の高校生世代支援講座利用者) ・講座参加時	「勉強が分かるようになった。」「先生が親しみやすく質問しやすい。」「通うことが楽しみである。」などの意見があった。 アンケート結果を次年度の事業運営に活かしていく。

6 区の取組状況(神奈川区)

取組①

地域福祉保健推進事業における小学校への出前教室における意見聴取 【福祉保健課】

取組内容

小学校の総合授業を活用し、第4期かながわ支え愛プランの啓発と、こどもたちの地域活動への参画意識の醸成を図った。

その中で、第5期の計画策定にあたって、こどもたちから「この街がもっとこうなったらいい」という意見を集めた。



対 象

小学5・6年生(193人)

実施時期

令和7年5月9日、令和7年5月30日、令和7年9月17日、令和7年11月14日

主な意見と 活用方法等

きれいな街、挨拶ができる街、安全な街、みんな仲がいい街、といった声を第5期かながわ支え愛プラン(神奈川区地域福祉保健計画)内の自分たちにできること、に掲載し、計画全体で取り組む内容とした。

実際に、授業を踏まえて、世代間交流やまちの美化等の地域の課題に小学生自らが向き合い、ごみ拾いウォーキングや、モルック大会を実施した。

6 区の取組状況(神奈川区)

取組 ②

公園美化・活性化にかかる小学校児童からの意見徴収【神奈川土木事務所】

取組内容

学校教育の一環として、小学校の近くにある公園の美化・活性化のために児童たちが意見を出し合い、切株アートや公園愛護会倉庫の塗装を行った。

また、本取組について、児童たちが商店街や地区センターにPRを行った。



対 象

小学5年生（約30人）

実施時期

令和7年9月～11月

主な意見と活用方法等

片倉公園をもっと魅力的な公園にしたい、という構想が児童から提案された。
提案された中から、片倉公園の美化や活性化に向けて出来る取組として、切株アートや公園愛護会倉庫の塗装を行った。

6 区の取組状況(神奈川区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	かながわ区防災デイキャンプにおける参加者アンケート	総務課	区内在住・在学の小学生(65人)	令和7年9月20日	避難所(地域防災拠点)や備蓄について理解が深まったという意見が多かった。 今後の啓発イベントがより効果的なものとなるよう、内容を検討する際に意見を活用する。
2	かながわ区民カレッジ for Kidsにおける参加者アンケート	区政推進課	小学生(25人)	令和7年8月16日	「太陽光発電は曇りや雨の日にはどうなるのか、光はためておけるのかを知りたい。」、「CO2の削減方法や日々できることを知りたい。」といった意見が集まった。 今後ワークショップを実施する際の題材の検討に活用する。
3	神奈川区制100周年記念ロゴマークの区民投票における、こどもの投票機会の創出	区政推進課	小学生、中学生など(約300人)	・令和7年12月22日 ～令和8年1月31日 ・令和8年1月10日	こどもたちの投票が、区民投票に反映された。
4	菅田地区センターの運営全般に係るこどもからの意見聴取	地域振興課	小学生、中学生(35人)	令和8年1月～2月	「読みたい本」の質問に対して4割の回答がマンガだったので、ロビーに自由に読めるマンガ(シリーズの揃ったもの)を配置した。
5	神奈川中学校コミュニティハウスでのイベント運営に係るこどもからの意見聴取	地域振興課	小学生、中学生(14人)	令和7年8月、11月	「準備から片付けまで自分たちが関わりたい」という意見があり、イベントの企画から当日の運営まで、延べ14名のこどもが自主的に参加してくれた。

6 区の取組状況(神奈川区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
6	みんなの文化祭夏のわくわくワークショップ参加者向けアンケート	地域振興課	未就学児、小学生等(全体で73人)	令和7年7月23日～25日、28日～29日	こどもたちの感想を、次年度の講座内容と依頼先の街の先生(地域活動ボランティア)の選定に活用した。
7	国の文化を伝えるネパールダンスの企画検討(神奈川区多文化共生ラウンジ)	地域振興課	未就学児、小学生、中学生、高校生(7人)	令和7年11月23日	こどもたちの意見を反映し、ダンスを学び披露する企画内容となった。 こどもたちの自主的な活動につながった。
8	六角橋地域ケアプラザ実施事業「サンタクリーン大作戦」(クリスマスの時期に実施する地域清掃の事業)における企画への大学生の意見反映	福祉保健課	大学生等(30人)	令和7年12月20日	3か月に渡り、事業の企画を協働で行った。 ごみの分別について詳しく知らない人が多い中で、分別方法を外国籍の方も含めた多くの人に知ってもらうためにはどうしたらよいかという話し合いを行い、資源循環局や多文化共生ラウンジに協力を依頼することとした。 企画内には、学生から出た以下の意見を取り入れた。 ○外国籍の方にも分かりやすくごみの分別を知ってもらえるよう、資源循環局に協力を依頼し、外国籍の方向けの分別方法レジュメを活用するとよい。 ○住民参加型のごみ拾い企画は、地域交流ができるほか、地域や地域のごみの現状を知る機会にもなるため実施するとよい。
9	六角橋地域ケアプラザ実施事業「オハナの遊び場」(公園遊びや宿題を一緒に行う事業)における企画への大学生の意見反映	福祉保健課	大学生(1回10人程度)	・令和7年8月6日 ・令和7年8月7日	地域ケアプラザの事業について、学生自身の主体性を活かし、企画実施を通して実践の場を提供した。また、広報紙等でのお知らせも協力を行った。 企画内には、学生から出た以下の意見を取り入れた。 ○親と子との関りの創出と、場の提供があるとよい。 ○季節にちなんだ行事の実施があるとよい。 ○学生同士の交流の機会をつくってほしい。(大学ではあまり先輩後輩同士関わる機会が少ない)

6 区の取組状況(神奈川区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
10	六角橋地域ケアプラザ実施事業 「まちを知ろう！ハロウィンパレード」における企画への高校生の意見反映	福祉保健課	高校生(15人)	令和7年10月25日	地域ケアプラザの事業について、専門学校と協力し、レクリエーションでは高校生が主体的に企画、実施した。 企画には、学生から出た以下の意見を取り入れた。 ○参加者同士が別の学校在籍の為、互いを知る、交流する機会としてほしい。
11	六角橋地域ケアプラザ実施事業 「スマホ講座」における企画への大学生の意見反映	福祉保健課	大学生 (1回15人程度)	・令和7年5月11日 ・令和7年7月13日 ・令和7年9月14日 ・令和8年1月11日 ・令和8年3月8日	地域ケアプラザの事業について、大学生が立案した。 ケアプラザは広報の支援と場所の提供、チラシ作成等の支援、自治会町内会の掲示板へチラシを掲示するための依頼や連携協力を行った。 事業内容には、以下のような意見を反映させた。 ○事業自体を後輩に引継ぎやすく、新人ボランティア学生にも紹介や案内、告知しやすい。ボランティア支援室への誘致につなげたい。 ○地域の方と接する機会が少ない学生にとって、事業を通して交流できることの大切さを知る機会としてほしい。
12	幼児用遊具の色の選定に伴う保育園及び地区センター利用者からの意見徴収	神奈川土木事務所	保育園児、地区センター利用者、公園利用者 (全体で562人)	令和7年6月～7月	計562票のアンケートの結果、得票率の高い青、緑の遊具を選定した。
13	公園花壇の花苗植付にかかる小学校児童からの意見徴収	神奈川土木事務所	小学3年生(33人)	令和7年7月～令和8年3月	自分たちで提案した花苗を植えたことにより公園への関心が高まった。花苗の植付後に、公園の利用マナー啓発看板を設置するなど、年間を通して公園の維持管理に参加する機会を創出した。

6 区の取組状況(西区)

取組 ①	にこまちプラン出前講座からの意見聴取 ①「（地域の一員として）今日からわたしにできること」の意見聴取 ②素案への区民意見募集 【福祉保健課】
取組内容	①小中学校に西区地域福祉保健計画（にこまちプラン）の出前講座を行った際に「（地域の一員として）今日からわたしにできること」について、その場または後日、意見を聴いた。 ②出前講座で第5期にこまちプラン素案への区民意見募集についても説明し、こどもたちから提出してもらった意見を区民意見に採用した。
対 象	①小学生、中学生（300人） ②制限なし（83人） ※出前講座で区民意見募集について説明した。
実施時期	令和7年4月～令和8年3月
主な意見と活用方法等	「挨拶をする」「地域のイベントや活動に参加する」などの意見が出された。実際に地域の方から「道で会った時に挨拶してくれるようになった」「こども食堂に来てくれた」という声を聞く。 次年度以降も地域とこどもたちとのつながりをつくるために、出前講座を活用していく。



6 区の取組状況(西区)

取組②

区民まつりでの意見聴取【福祉保健課】

取組内容

区民まつりのブースで、3つのオープンクエスチョン（①周りの大人にアドバイスしたいことは？②10年後、どんな地域に住んでいたい？③困っていることはどんなこと？）から、回答したい質問を選び、付箋に回答を書いてもらう形で意見を聴取した。



対 象

未就学児～高校生（約300人）

実施時期

令和7年11月2日

主な意見と 活用方法等

①→タバコを捨てないで、ルールを守って等②→安心・安全なまち、楽しいまち等③→友達のケンカ、宿題が多い等の意見をもらった。

西区地域福祉保健計画発表会（にこまちフォーラム）でパネル展示を予定していたが、出店ブースが多く、展示を見送った。

にこまちプラン（西区地域福祉保健計画）の策定にあたり、目標5プロジェクトチーム（「こどもが健やかに成長できるまち」を推進するための複数課・区社協一体のチーム）にアンケート結果を共有して参考にしてもらった。今後もこどもたちからもらった意見を目標5プロジェクトチームに共有し、にこまちプラン目標5の取組に反映させていく。

6 区の取組状況(西区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	藤棚地区センター自主事業「小学生オセロ大会(予選会)」における小学生からの意見聴取	地域振興課(指定管理者の取組)	小学1～6年生(9人)	令和7年8月7日	参加者全員が「たのしかった」「また参加したい」と回答した。 7割がポスターを見て参加していたため、引き続き館内での周知に力を入れる。
2	藤棚地区センター自主事業「横浜市みどり環境局による講座音のふしぎを体験してみよう」における小学生からの意見聴取	地域振興課(指定管理者の取組)	小学生(11人)	令和7年8月8日	1.参加者の90%が「とても楽しかった」と回答があった。 2.これからやってほしいイベントとして、 ・光の実験や光の錯覚 ・時間の存在 ・アニメのイベント ・お話会 ・工作教室 など多くのご意見があった。 工作教室開催を希望するご意見を参考に、令和8年度夏休みに「土偶づくり」の工作教室を実施する。
3	戸部コミュニティハウス自主事業「おもしろ科学教室」における小・中学生からの意見聴取	地域振興課(指定管理者の取組)	小学生、中学生(10～20人)	令和7年7月12日 令和7年9月27日 令和7年11月8日	自主事業に参加した小学生のイベントの満足度は93%が満足と回答し、感想として「楽しかった」と9割以上が記入していた。 今後開催して欲しいイベントとして「プログラミング」や「ロボット作り」などの回答は、こども達の興味の方向性を知ることができ活用したいと考える。
4	戸部コミュニティハウス自主事業「オセロ予選会」における小学生からの意見聴取	地域振興課(指定管理者の取組)	小学生(10人)	令和7年8月2日	参加者がイベントについて満足と回答したのは90%で不満回答は0%であった。今後開催を希望するイベントとして「将棋」を希望する回答が特に多かった。 その他様々な希望があり今後の自主事業計画へ反映したいと考える。

6 区の取組状況(西区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
5	戸部コミュニティハウス自主事業「子ども将棋教室」における小学生からの意見聴取	地域振興課(指定管理者の取組)	小学生(15人)	令和7年8月20日	参加した小学生の満足度として満足が60%、普通が33%、不満が7%(回答者1人)であった。満足の回答者は「上の学年に勝てた」や「いろんな人と対局ができたから」、不満の回答者は「こわかった」と記入されていた。1年生の参加が33%で小学生としてのイベント参加が初めてだった可能性もあることを考え受付や講師の対応を見直す良い意見をいただけた。 自由回答では「おべんきょうになった」「最高でした。明日は絶対勝ちたい」など、今後開催を希望するイベントは「パソコン教室」が最多であった、今後の自主事業計画へ反映したい。
6	戸部コミュニティハウス自主事業「親子でフェイスペイント」における小学生等からの意見聴取	地域振興課(指定管理者の取組)	小学生以上(7人)	令和7年10月4日	参加者1人以外は満足と回答していた。記述式の感想では「道具が全て用意されていたことが良かった」という意見が複数あった。本格的なペイントを気軽に体験できたことが好評であった。評価していただいた点を今後の自主事業計画へ反映したい。
7	にこまちプラン出前講座からの意見聴取 ①「(地域の一員として)今日からわたしにできること」の意見聴取 ②素案への区民意見募集	福祉保健課	①小学生、中学生(300人) ②制限なし(83人) ※出前講座で区民意見募集について説明した。	令和7年4月～令和8年3月	「挨拶をする」「地域のイベントや活動に参加する」などの意見が出された。実際に地域の方から「道で会った時に挨拶してくれるようになった」「こども食堂に来てくれた」という声を聞く。 次年度以降も地域とこどもたちとのつながりをつくるために、出前講座を活用していく。

6 区の取組状況(西区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
8	区民まつりでの意見聴取	福祉保健課	未就学児～高校生 (約300人)	令和7年11月2日	①→タバコを捨てないで、ルールを守って等②→安心・安全なまち、楽しいまち等③→友達のケンカ、宿題が多い等の意見をもらった。 西区地域福祉保健計画発表会(にこまちフォーラム)でパネル展示を予定していたが、出店ブースが多く、展示を見送った。 にこまちプラン(西区地域福祉保健計画)の策定にあたり、目標5プロジェクトチーム(「こどもが健やかに成長できるまち」を推進するための複数課・区社協一体のチーム)にアンケート結果を共有して参考にしてもらった。今後こどもたちからもらった意見を目標5プロジェクトチームに共有し、にこまちプラン目標5の取組に反映させていく。
9	夏休みこども企画・昼どきラジオ体操におけるこどもからの意見聴取	宮崎地域ケアプラザ	幼児、小学生(10人)	令和7年8月18日～22日	身近な場所でラジオ体操や金魚(おもちゃ)すくいや輪投げゲームをできることが楽しかった、来年もやりたい等の意見が出た。 地域のこどもたちが楽しめ、交流が深まる場として、こどもたちが次年度も開催することを決定した。引き続き、こどもたちの意見と主体的な参加によって、この企画を継続していく。
10	町内会こども会によるパン作り教室における意見聴取	宮崎地域ケアプラザ	幼児、小学生(15人)	令和7年9月28日	「自宅ではなかなかできない体験であり、いい経験になった」「普段気軽に食べているものも様々な材料や手順で作られているという発見があった」などの意見があった。 貴重な体験の場であるため、より多くの地域のこどもたちが体験できるよう、意見を活用し、次年度以降も実施できるよう調整中。

6 区の取組状況(西区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
11	中学校職場体験における意見聴取	宮崎地域ケアプラザ	中学生(4人)	令和8年1月27日～29日	「職員が誰にでも笑顔で優しくまた積極的に接していたり、様々な工夫を感じられて良かった」「認知症についての理解が深まった」などの意見をもらった。 次年度以降も同様に受入予定であり、内容の改善等に活用予定。
12	認知症サポーター養成講座(場所:富士見台小学校)における意見聴取	藤棚地域ケアプラザ	小学1年生(43人)	令和7年9月19日	「困っている人がいたら助ける」といった意見が多かった。 「認知症」に対して偏見を持たないことと自分たちで出来ることを考えてもらうという意図を持って講座を実施したので目的は達成できたことが確認できた。 困っている人と関わる場合、児童が危険な目に合わないよう今後の児童向け講座ではより配慮した内容にしていく。
13	夏休みボランティア体験におけるアンケートからの意見聴取	西区社協・西区内地域ケアプラザ(区社協とケアプラザの共催)	小学生～大学生等(21人)	令和7年7月～8月	活動場所によっては「あまりやることがなかった」など、活動内容に関する意見があったため、それらを参考にして次年度のプログラムを作成した。 今後もアンケートから率直な意見を聞き、内容の工夫に努める。

6 区の取組状況(中区)

取 組 ①	中区制100周年キャッチフレーズについて18歳以下の子どもを対象とした募集【区政推進課】
取組内容	2027年に迎える中区制100周年について、次世代を担う18歳以下の中区民（在学・在勤含む）を対象に、未来に向けて一歩を促すような、中区制100周年キャッチフレーズを募集した。  100年の海風、未来へ帆をあげて
対 象	主に小学生、中学生、高校生（145人）
実施時期	令和7年10月1日～11月20日
主な意見と活用方法等	145件の応募があり、その中から、中区制 100周年記念事業実行委員会において候補作品を4作品に絞ったうえで、一般投票により1作品に決定した。 決定したキャッチフレーズのイメージにあった中区制 100 周年記念ロゴマークを作成した。 キャッチフレーズとロゴマークを、今後中区制100周年のPRに積極的に活用していく。

6 区の取組状況(中区)

取組②

なかくっこ自由研究大作戦でのアンケート実施【区政推進課】

取組内容

主に小学生を対象として、夏休み期間中に区役所や会社のお仕事、地域について楽しく学ぶことができるプログラム『なかくっこ自由研究大作戦』について、令和8年度に実施する題材を検討するため、各題材の参加者にアンケートで意見を募集した。



対 象

小学生（253人）

実施時期

令和7年7月～8月

主な意見と活用方法等

特に多かった意見は工事現場・車両基地・港湾施設・県庁、市役所、企業の裏側など「普段は入れない場所に入れる企画」であった。
これを受け、令和8年度は新規題材として、旧横浜市役所を活用したホテル内部見学企画を実施予定。

6 区の取組状況(中区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	中区制100周年キャッチフレーズについて18歳以下の子どもを対象とした募集	区政推進課	主に小学生、中学生、高校生（145人）	令和7年10月1日～11月20日	145件の応募があり、その中から、中区制 100周年記念事業実行委員会において候補作品を4作品に絞ったうえで、一般投票により1作品に決定した。 決定したキャッチフレーズのイメージにあった中区制100周年記念ロゴマークを作成した。 キャッチフレーズとロゴマークを、今後中区制100周年のPRに積極的に活用していく。
2	なかくっこ自由研究大作戦でのアンケート実施	区政推進課	小学生（253人）	令和7年7月～8月	特に多かった意見は工事現場・車両基地・港湾施設・県庁、市役所、企業の裏側など「普段は入れない場所に入れる企画」であった。 これを受け、令和8年度は新規題材として、旧横浜市役所を活用したホテル内部見学企画を実施予定。
3	選挙啓発の出前授業における生徒からの意見聴取（本町小学校）	総務課	小学6年生（90人）	令和7年12月23日	「メニューを増やした方がより興味深くなる」との意見が複数見られた。一方で、講義の評価は概ね良好であったものの、「実際の選挙に参加したいという意欲」との間に顕著な相関は確認されなかった。 これを踏まえ、次年度においては候補メニューの拡充を図るとともに、小学生にとっても選挙をより身近なものとして実感できるような取り組みを推進していく必要がある。
4	選挙啓発の出前授業における生徒からの意見聴取（港中学校）	総務課	港中学校生徒会の3年生（20人）	令和7年12月3日	アンケートでは参加者全員から前向きな意見が得られ、若年層への啓発につながる成果が確認できた。 今後も同様の講義を継続的に実施するとともに、生徒会役員に限らず、生徒会活動に関心を有する生徒にも参加機会を拡充させていきたい。

6 区の取組状況(中区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
5	地域創生まじゅんプロジェクト（中区連携プロジェクト）における大学生からの意見聴取	地域振興課	大学生（5人）	令和7年4月～12月	言葉の壁や世代を超えて参加者間の結びつきを作るため、スポーツイベントを行った方が良い。国籍を問わず、好きな漢字を筆で書くイベントはどうか。 上記の意見を外国籍住民が多く住むエリアの町内会長に伝えた。
6	《第5期中区地域福祉保健計画 中なかいいネ！策定における区計画素案への意見聴取》 ①小学生へのワークショップ ②中学生へのワークショップ ③大学生との意見交換会	福祉保健課	①小学生（33人） ②中学1・2年生（28人） ③大学生（18人）	①令和7年11月12日、20日 ②令和7年11月7日、26日 ③令和7年10月17日	①楽しい、優しい、健康など、大切に思うことを絵や文字で表現してもらい、「こどもの意見を聴く取組」として計画に掲載した。 《意見》困っている人を助ける、楽しく仲良く話して運動する、ラジオ体操に参加する、助け合いのマークをつくる など ②地域住民の集まる場所や施設、交通課題などについて意見を記入してもらい、「こどもの意見を聴く取組」として計画に掲載した。 《意見》運動（バスケットボール）をする・集まれる場所がない、たばこのポイ捨て、自転車のマナー違反などを課題に感じている それに対する解決策としては、大人・行政に相談する、同じ悩みを持っている人で集まって考える、注意喚起のポスターを掲示する など ③「地域活動の情報にたどり着けない」「夏休みだけの参加でOKなど、気軽な選択肢があるとよい」「若者はマンパワーに見られがち。企画段階から参加したい」といった意見をもらった。計画にコラムとして掲載した。

6 区の取組状況(中区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
7	④「埋地ミニ夏祭り」に参加したこどもたちから、地域福祉保健についての意見を聴取 ⑤「なかくっこ自由研究大作戦（小学生向けプログラム）」の防災講座およびマルシェ講座に参加したこどもたちから、地域福祉保健についての意見を聴取 ⑥「ハローよこはま（区民まつり）」に参加したこどもたちにアンケートを実施し、地域福祉保健についての意見を聴取 ⑦「にじいろ大合戦（運動会）」に参加した外国にルーツのある中高生にアンケートを実施し、地域福祉保健についての意見を聴取	福祉保健課	④⑤⑥小学生 ⑦中学生・高校生（計67人）	④令和7年7月26日 ⑤令和7年8月6日 ⑥令和7年11月9日 ⑦令和7年10月25日	自然が多くてよい、まちがきれいなど、景観やイベントの多さに関する意見があった。 優しい人が多い、仲がよい人がいるなど、人との関わりに関する意見があった。出された意見は、今後の計画推進への参考としていく。
8	ピースフルファミリー事業（個性ある区づくり推進費事業）におけるアンケート聴取	こども家庭支援課	主に3～8歳（17人）	令和7年8月17日	選択式回答では、すべての回答者がこどもと一緒に遊べるイベントを希望したほか、季節に関するイベント（クリスマス・ハロウィン等）を希望する意見もあった。自由記述では、スポーツなど「身体を動かす」イベントに参加してみたい！という意見が多数だった。また、工作など手を動かすイベントへの関心がみられた。聴取した意見は今後の事業企画の参考としていく。

6 区の取組状況(南区)

取 組 ①	「横総生にオファーです」における喫煙防止対策への提言【福祉保健課】	
取組内容	地域から提示された課題に生徒（高校2年生）がグループで取り組み、フィールドワーク等を通じて、同じ年代の中学生や高校生が今も将来もたばこを吸わない選択ができるような啓発方法や解決策を検討提案した。	
対 象	高校生（約70人）	
実施時期	令和7年11月12日・令和8年1月23日	
主な意見と活用方法等	・啓発手法としてSNS動画やポスター掲示が多く挙げられた。 ・SNS動画では冒頭で引きつけることや時間を短くしホームページに誘導するなどのアイデアが出され、当課で作成予定の生活習慣改善啓発の動画に取り入れる。 ・ポスター掲示場所は駅、商店街、電柱、路面のアイデアが出された。 ・「健康への悪影響」ではなく、周囲の目や就活への影響、環境問題など、別の視点での喫煙防止の動機付けを行うアイデアが出された。未成年向けの啓発物の作成や健康教育の場面に取り入れる。	

6 区の取組状況(南区)

取組 ②

市長と語ろう！（市民局広聴相談課主管事業）【区政推進課】

取組内容

山中市長との集会広聴の場において、
南中学校防災キャンプについて参加した感想や、
南中学校での普段の防災に関する活動、地域との
関わりについて述べてもらい、意見交換を実施した



対 象

中学生（4人）

実施時期

令和7年12月6日

主な意見と 活用方法等

中学生の参加が少ない。自分も含め、中学生ももう少し防災意識を高めていきたいという意見があった。

発災時の地域の重要な担い手である中学生に向けた防災啓発について、令和7年度に中学生講座を5校で実施、訓練を1校で実施した。令和8年度も引き続き、区内中学校を対象とした講座や体験を主とした訓練実施に取り組む。

6 区の取組状況(南区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	「夏休みちょこっとボランティア」中高生参加者アンケート	こども家庭支援課	中学生、高校生 (55人)	令和7年8月21日、 22日	アンケート結果を、次年度事業におけるオリエンテーションの在り方や記念品の選定等において参考とした。
2	子どもの居場所について区内イベント参加者(子ども)へのアンケート	こども家庭支援課	未就学児～高校生 (619人)	・令和7年10月5日 ・令和8年3月21日、 22日	・自宅の近くで、気軽に立ち寄れて同年代の子や親、地域と交流ができるような場所がよい。 ・自分の発想で遊べたり、子ども主体の楽しいイベントがある活動場所に行ってみたい。 把握したこれらの子ども自身の希望、意見を、各実施団体と共有することで、各団体の運営、支援に役立てることができた。
3	横浜総合高校の部集会(Ⅰ部・Ⅱ部・Ⅲ部)にてお金に関するミニ講座『一人暮らしって、いくらかかるの?』を実施後、講座の理解度とお金に係る講座の内容で心に残ったこと、興味を持ったことについて生徒からの意見聴取	生活支援課	高校生(188人)	令和7年7月17日	アンケートには188人(Ⅰ部96人、Ⅱ部46人、Ⅲ部41人、不明5人)が回答した。講座については、「参考になった」141人、「まあまあ参考になった」44人、「あまり参考にならなかった」3人で、回答者の98%が概ね理解できたと評価した。自由意見からは、生活費の具体的な金額への関心や、生活支援課・相談窓口の存在による安心感、貯金や計画的な金銭管理の重要性への意識向上が見られた。また、横浜総合高校からも、自立に向けた有意義な講座であるとの評価を受けた。 これらの結果を踏まえ、本講座は令和8年度も継続して実施することとなり、アンケートや意見を今後の実施内容の検討・改善に向けて参考とした。
4	南わくわく防災体験バスツアーアンケート	総務課	小学生(42人)	令和7年8月20日、 22日	小学生や親子向けの防災啓発事業の内容に関するアンケートを行い、どのような防災啓発事業内容であれば関心を持って参加希望を得られるのかについて意見を収集した。防災工作教室や防災クッキング、現状のバスツアーに対する関心が高いことが改めて把握でき、今後の小学生世代向け防災啓発事業の企画検討時の参考資料とした。

6 区の取組状況(南区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
5	横総生にオファーです。	総務課	高校生（11人）	令和8年1月23日	横浜総合高校の生徒に、高校生世代が関心を持ってもらえる防災啓発事業内容について検討・提案をいただいた。学校行事の文化祭とタイアップした啓発や一般的な人気コンテンツであるクイズラリーやVR体験、高校生にも関心が得られやすい防災グッズを詰め合わせたボトル制作のワークショップなど、幅広い事業企画案を得られたため、今後の高校生世代向け防災啓発事業の企画検討時の参考資料とした。
6	明るい選挙映画会アンケート	総務課	未就学児、小学生（61人）	令和7年12月20日	投票用紙に模したアンケート用紙を用いて、上映映画に係るキャラクターの人気投票を行った。好きなキャラクターの名前を選挙に用いる記載台で記入いただくことで、より選挙を身近に感じてもらうようにした。 アンケートには映画会の感想や今後見たい映画の欄を設け、映画会の満足度を把握するとともに、次年度以降の映画会で放映する映画を選定する際の参考資料とした。
7	外国につながる青少年のボランティアプログラム	地域振興課	高校生、大学生（8人）	令和7年7～8月	「参加者どうして、コミュニケーションを取り、協力しながらできたのが良かった」、「地域の小学生と交流して、楽しかった」との声が聞かれた。
8	南区文化祭に来場した未就学児から高校生までを対象とする「こどもアンケート」	地域振興課	未就学児～高校生（73人）	令和7年11月	文化祭で「いろんな作品作りの体験ができると楽しい」との意見が多数あった。南区文化祭は、これまで作品の展示やダンス等の披露が中心であったが、参加型のワークショップも実施する方針となった。

6 区の取組状況(南区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
9	「横総生にオファーです」における喫煙防止対策への提言	福祉保健課	高校生（約70人）	令和7年11月12日 令和8年1月23日	啓発手法としてSNS動画やポスター掲示が多く挙げられた。 SNS動画では冒頭で引きつけることや時間を短くしホームページに誘導するなどのアイデアが出され、当課で作成予定の生活習慣改善啓発の動画に取り入れる。 ポスター掲示場所は駅、商店街、電柱、路面のアイデアが出された。 「健康への悪影響」ではなく、周囲の目や就活への影響、環境問題など、別の視点での喫煙防止の動機付けを行うアイデアが出された。未成年向けの啓発物の作成や健康教育の場面に取り入れる。
10	市長と語ろう！ ※市民局広聴相談課主管事業	区政推進課	中学生（4人）	令和7年12月6日	中学生の参加が少ない。自分も含め、中学生ももう少し防災意識を高めていきたいという意見があった。 発災時の地域の重要な担い手である中学生に向けた防災啓発について、令和7年度に中学生講座を5校で実施、訓練を1校で実施した。令和8年度も引き続き、区内中学校を対象とした講座や体験を主とした訓練実施に取り組む。

6 区の取組状況(港南区)

取 組 ①	港南区3R動画コンテスト【地域振興課】
取組内容	子どもたちの環境問題への関心を高めるため、自ら考え発信する機会の提供の一環として、区内在住・在学の小・中学生および高校生を対象に、「3R（リデュース・リユース・リサイクル）」をテーマとした動画作品を募集する「港南区3R動画コンテスト」を実施した。 また、受賞作品については、表彰式において表彰を行った。
対 象	区内在住・在学の小中学生及び高校生（40人）
実施時期	令和7年7月25日～11月14日
主な意見と活用方法等	3Rについて学んだ内容を動画として制作することで、アウトプットの機会を提供した。 受賞作品については表彰式を開催し、表彰を行うとともに、市のホームページで公開することで、子どもたちのやりがいの創出につなげた。

6 区の取組状況(港南区)

取 組 ②	港南ひまわりプランのアンケート 【福祉保健課】
取組内容	港南ひまわりプランに関するアンケート
対 象	中学生以下（454人）
実施時期	令和7年度6月～11月
主な意見と活用方法等	【アンケート結果】 ・ 港南ひまわりプランの認知度（推進キャラクターの認知度） 知っている26%、知らない74% ・ 近所に挨拶する人がいるかどうか いる83%、いない17% 【活用方法】 港南ひまわりプランの認知度向上を図るとともに、計画の推進に活かしていく。



6 区の取組状況(港南区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	スマホ・SNS安心セミナー	区政推進課	小学生、中学生 (4人)	令和7年11月29日	横浜グリーンエキスポという名称の認知度は高いことが判明したが、開催内容および公式マスコットキャラクターの認知度については低いことを把握できた。 パネル展の展示内容に、アンケートから得られたニーズを反映させた。
2	環境学習講座	区政推進課	小学生(78人)	・令和7年8月9日 ・令和8年2月28日	満足度:満足・やや満足が97% 次年度の実施内容検討時の参考にする。
3	みんなの83交通安全ラボ	地域振興課	小学生(こどもの意見数不明)	令和7年9月～ 令和8年3月	体験を通じて得た通学路に対する交通安全に関する知識や考えを、子どもたちの中で共有。考えをまとめて同校の下級生・地域の方へ向けて発表することで通学路の安全について意識を高めた。
4	港南区3R動画コンテスト	地域振興課	区内在住・在学の 小中学生及び高校生(40人)	令和7年7月25日～11月14日	3Rについて学んだ内容を動画として制作することで、アウトプットの機会を提供した。 受賞作品については表彰式を開催し、表彰を行うとともに、市のホームページで公開することで、子どもたちのやりがいの創出につなげた。

6 区の取組状況(港南区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
5	港南区と宮城県大崎市の児童が相互のまちを訪問する「ひまわり生活体験交流」の参加者アンケート	地域振興課	小学4～6年生(20人)	令和7年8月	「参加してよかった」、「港南区や大崎市が好きになった」という意見が多くあった。 今回の行程について、沢登りや野外炊飯が楽しかったという声が多かった。その他、行ってみたいところへの希望なども得ており、今後の事業実施の参考にする。
6	「ひまわりミュージックフェスタ」参加者アンケート	地域振興課	小学生、中学生(約120人)	令和8年1月	「他の学校の演奏を聴けて良かった」、「今後も参加したい」という意見が多くあり、引き続き小中学生の発表の場として継続していく。 当日スケジュールやステージ構成などについての要望を先生方とも共有し、今後の改善点を話し合った。
7	「こうなん子どもゆめワールド」及び「メタバース会場」来場者・参加者アンケート	地域振興課	小学4～6年生(子どもスタッフ)、小学生、中学生、高校生(出演者)、来場者(全体で約40人)	令和7年11月～12月	子どもスタッフの参加者からは『『がんばって』『ありがとう』と言われて嬉しかった』『接客するのが楽しかった』などの意見が多くあり、ゆめワールドの主役である子どもたちが活躍する場として、引き続き子どもスタッフを継続していく。 メタバース会場の各種コンテンツが「楽しかった」、来年もメタバース会場を「利用したい」という意見が多くあり、8年度も引き続き楽しんでもらえるコンテンツ作りに取り組む。
8	第三次読書活動推進目標の策定に関するアンケートの実施	地域振興課	制限なし(49人) ※こどもが回答しやすいように、質問項目を簡潔にした。	令和7年6月～8月	「電子書籍の利用経験」や「読書バリアフリー図書の認知度」についてアンケートを実施した結果、第三次読書活動推進計画における「読書バリアフリーの推進」の必要性和重要性が確認された。 「図書館でやりたいこと」に関する自由記述では多様な意見が寄せられており、今後の参考として活用していく。

6 区の取組状況(港南区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
8	第三次読書活動推進目標の策定に関するアンケートの実施	地域振興課	制限なし(49人) ※こどもが回答しやすいように、質問項目を簡潔にした。	令和7年6月～8月	「電子書籍の利用経験」や「読書バリアフリー図書の認知度」についてアンケートを実施した結果、第三次読書活動推進計画における「読書バリアフリーの推進」の必要性和重要性が確認された。 「図書館でやりたいこと」に関する自由記述では多様な意見が寄せられており、今後の参考として活用していく。
9	「ひまわりフェスタ」来場者・参加者アンケート	地域振興課	こども含む全世代(2人)	令和7年10月～11月	ひまわりフェスタに参加してみて「良かった」という意見をいただいた一方、10代～それ以下の子どもの回答が無かったため、8年度はより多くの子どもたちに回答してもらえよう、アンケート方法を工夫したい。
10	第5期港南ひまわりプラン(素案)区民意見募集	福祉保健課	19歳以下(103人)	令和7年8月1日～8月31日	「目標はシンプルだけど、地域 みんなが主体となってより良い町にしていくための具体的で良い目標だと思います。」「『支えあう』で声を少しでもかけたり、『大丈夫ですか?』『なにかできることはありますか?』とたずねれば、みんなが笑顔になると思います。」「(概念図について)ひまわりの花の地面が『思いやり』なのが良いと思います。」などの意見があった。 第5期港南ひまわりプランに反映するほか、関係機関と共有し、今後の事業に活かしていく。

6 区の取組状況(港南区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
11	港南ひまわりプランのアンケート	福祉保健課	中学生以下(454人)	令和7年度6月～11月	【アンケート結果】 ・港南ひまわりプランの認知度(推進キャラクターの認知度) - 知っている26%、知らない74% ・近所に挨拶する人がいるかどうか - いる83%、いない17% 【活用方法】 港南ひまわりプランの認知度向上を図るとともに、計画の推進に活かしていく。
12	地域福祉保健計画策定に係るこどもからの意見聴取(日野南地域ケアプラザ)	福祉保健課	小学4年生(約30人)	令和7年5月～12月	「公園を綺麗にしたい。(環境に関心のある児童が多い)」、「防犯、防災パトロールのおかげで安心して生活できる。」、「子供のために沢山のイベントを企画してくれて嬉しい。」、「今度は自分たちが、皆が笑顔になるまちをつくっていきたい。」などの意見があった。 いただいた意見を地域住民と共有し、日野南地区地域福祉保健計画の策定に反映した。計画のリーフレットにも「地域みんなの声」として記載された。

6 区の取組状況(保土ヶ谷区)

取 組 ①	区制100周年事業「こども未来プロジェクト」における中学生によるオンラインミーティング 【こども家庭支援課課】
取組内容	令和9年に区制100周年を迎えるにあたり、こどもたちの提案による機運醸成等の取組を実施するため、オンラインミーティングを開催している。 
対 象	中学生（1回5～10人程度）
実施時期	令和7年4月25日、令和7年7月4日、令和7年9月29日、令和8年3月4日
主な意見と活用方法等	区制100周年を盛り上げるためのアイデア（お祭りでワークショップをやりたい、おそろいのTシャツを着て活動したい、キャラクターを使用したグッズを作成したいなど）を話し合い、こどもたちの提案による事業を実施した。（区民まつりへのワークショップ出店、区長ミーティングでのグッズ案企画書のプレゼン）

6 区の取組状況(保土ヶ谷区)

取組②

横浜国立大学BOSAIラボとの防災啓発ショート動画作成

【総務課】

取組内容

若者をターゲットとした防災啓発を目的とし、若者の防災対策の状況を把握し、効果的な啓発をするためのアンケートを横浜国立大学にて実施した。

若者から「短時間で要点が伝わる動画」「SNSで見やすい形式が良い」との意見が多く寄せられたため、若者に届きやすいショート動画形式で啓発動画を制作した。区SNSにおいて4本の動画を公開し、約2ヶ月でYouTube・Instagram合計視聴数は16,000回以上、Xでの表示回数は17,000回以上となった。



- ・災害時の水に関する備え
- ・災害時の食事に関する備え
- ・災害時のトイレに関する備え
- ・避難所に関するまちがい3選

対象

大学生（約200人）

実施時期

- ・令和7年4月（アンケート）
- ・令和7年5月～令和8年3月（動画制作）

主な意見と活用方法等

防災に関する啓発については、大学生にアンケートを行ったところ、講演会等を実施するよりも、ショート動画やSNSを活用した情報発信の方が、若い世代の関心を引きやすく、効果的であるとの意見があった。

その意見を踏まえ、BOSA Labの大学生が主体となって防災啓発動画を制作し、SNS上で公開したところ、一定の視聴数及び表示回数を獲得することができた。

6 区の取組状況(保土ケ谷区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	区制100周年事業「こども未来プロジェクト」における中学生によるオンラインミーティング	こども家庭支援課	中学生（1回5～10人程度）	令和7年4月25日 令和7年7月4日 令和7年9月29日 令和8年3月4日	区制100周年を盛り上げるためのアイデア（お祭りでワークショップをやりたい、おそろいのTシャツを着て活動したい、キャラクターを使用したグッズを作成したいなど）を話し合い、こどもたちの提案による事業を実施した。（区民まつりへのワークショップ出店、区長ミーティングでのグッズ案企画書のプレゼン）
2	横浜国立大学BOSAIラボとの防災啓発ショート動画作成	総務課	大学生（約200人）	令和8年4月 （アンケート） 令和8年5月～ 3月（動画制作）	防災に関する啓発については、大学生にアンケートを行ったところ、講演会等を実施するよりも、ショート動画やSNSを活用した情報発信の方が、若い世代の関心を引きやすく、効果的であるとの意見があった。 その意見を踏まえ、BOSAIラボの大学生が主体となって防災啓発動画を制作し、SNS上で公開したところ、一定の視聴数及び表示回数を獲得することができた。
3	「夏休みこどもエコチャレンジ」（令和7年度）における参加者アンケート	区政推進課	小学生（29人）	令和7年8月	アンケートでは、地球環境に関して次に知りたいこととして「世界で1年間にどのくらいのCO2が出ているのか知りたい」などの意見が出た。 次年度以降実施する際、講座内容への反映を検討する。
4	【読書活動推進事業】第三次保土ケ谷区読書活動推進目標こどもの意見反映のため	地域振興課	小学生、中学生、高校生（82人）	令和7年9月～ 10月	「小さい頃に読み聞かせしてもらったのが読書のきっかけとなっている。」「同じ本を読んで、その本について語り合うイベントがあったら参加したい。」「想像していたものと違う展開になるときに読書の楽しさを感じる。」などの意見があった。 第三次保土ケ谷区読書活動推進目標に反映した。

6 区の実組状況(保土ヶ谷区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
5	「ほどがやこどもファクトリーツアー」におけるアンケート	地域振興課	小学3～6年生 (22人)	令和8年3月	「楽しかったのでまた行く!」「説明だけでなく実際に触ったりするのがいいと思った。」などの意見があった。参加者の100%から「面白かった」と回答があった。 次年度の同事業に反映、見学先企業にフィードバックとして共有した。
6	がやっこ探検隊 アンケート	地域振興課	小学3～6年生 (64人)	令和7年9月～10月	「宿泊体験が楽しかった。」「色んなお友達と遊べて楽しかった。」などの意見があった。「とても楽しかった」と「楽しかった」を合わせて100%となった。 次年度の事業に反映した。
7	がやっこ教室 アンケート	地域振興課	小学生、中学生 (250人)	令和7年7月、 8月、12月	「普段使えない道具を使って工作ができて楽しかった。」「貴重な体験ができた。」などの意見があった。「よかった」と「どちらかといえばよかった」あわせて100%となった。 次年度の事業に反映した。
8	こども歴史まち歩き	区政推進課	小学生、中学生 (20人)	令和7年11月30日	アンケートでは、保土ヶ谷の歴史を知ってもらうためにどんなことをしたらよいか、という質問に対し、「昔の写真をたくさん見せる」や「歴史に関するゲーム・クイズをする」といったような次年度以降のイベント企画に盛り込みそうな意見も出たので、実施内容への反映を検討する。

6 区の取組状況(旭区)

取組①

選挙啓発イベント参加生徒向けアンケート【総務課】

取組内容

新たに有権者となる高校生3年生を対象として、選挙への意識や投票のきっかけづくりを目的とした出前授業と、架空の市長選挙での模擬投票を区内高校にて実施。

実施後は、投票率の低い若年層に選挙を身近に感じてもらうにはどうしたらいいかなどを設問としたアンケート調査を行い、次回以降の出前授業実施の参考とした。



対 象

高校3年生（約90人）

実施時期

令和7年4月8日

主な意見と活用方法等

「実際に投票や開票までの流れを知ることができ、選挙への興味が湧いた。」、「投票に行くことの重要性を改めて知ることができた。有権者になったら投票に行こうと思った。」、「投票できる人とできない人の違いなどをもっと知りたい」といった意見をいただいたため、今年度のイベント内容に反映し、投票日当日不在の場合の投票制度の説明も盛り込んだ。

6 区の取組状況(旭区)

取組②

南本宿公園コミュニティハウスのロゴ制作【区政推進課】

取組内容

近隣小学校の児童（有志）からアイデアを募り、南本宿公園内に新たに整備する南本宿公園コミュニティハウスのロゴデザインを制作した。



対 象

小学6年生（16人）

実施時期

令和7年9月22日

主な意見と 活用方法等

参加児童の新しく整備される南本宿公園コミュニティハウスがどんな場所になってほしいか」という想いを込めて、様々なロゴのイメージを提案してもらった。
そこで提案いただいた、ロゴのイメージから、児童のみなさんの想いをくみ取り、デザイナーがシンボリックなものに再構築し、ロゴデザイン案を3案製作した。
その案の中から全校生徒のみなさんの投票により、ロゴを決定した。

6 区の取組状況(旭区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	帷子川の今後の河川水辺環境を考える小学生とのワークショップ	下水道河川局河川流域整備課、旭区区政推進課、土木事務所	小学5年生（約200人）	【各校3回実施】 1回目：令和7年6月 2回目：令和7年7月 3回目：令和7年12月～令和8年1月	将来の帷子川のあり方について、「川で水遊びをしたい」「魚取りをしたい」「水辺を散歩したい」など、自然との触れ合いや川の利用に関する幅広い意見が寄せられた。 こども達の意見をもとに整理した「生物」「景観」「利用」「親水」「安全」の5つの視点を、帷子川の河川環境整備計画に反映した。
2	選挙啓発イベント参加生徒向けアンケート	総務課	高校3年生（約90人）	令和7年4月8日	「実際に投票や開票までの流れを知ることができ、選挙への興味が湧いた。」、「投票に行くことの重要性を改めて知ることができた。有権者になったら投票に行こうと思った。」、「投票できる人とできない人の違いなどをもっと知りたい」といった意見をいただいたため、今年度のイベント内容に反映し、投票日当日不在の場合の投票制度の説明も盛り込んだ。
3	令和7年度帷子川環境学習アンケート	区政推進課	小学4・5年生（約200人）	令和7年8月25日～令和7年10月11日	「帷子川にいる生き物と触れ合えて楽しかった」「魚について興味をもつようになった」等の意見が寄せられ、次年度以降の実施内容の検討材料として活用した。
4	あさひわくわく科学ラボ参加者アンケート	地域振興課	小学生（20人）	令和7年8月14日	イベント満足度として「楽しかった」「やや楽しかった」を合わせると100%であった。 内容の理解度や講師の説明について「理解できた」「良くわかった」という意見が多かったことを踏まえて、次年度の内容の難易度も同程度とした。 「簡単な工作の中に科学を感じられてよかった」という意見を踏まえて、次年度も同様の内容を盛り込んだ。イベントを知ったきっかけとして広報よこはまやHPの割合が多かったため、次回以降の周知方法の参考とした。

6 区の取組状況(旭区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
5	GREEN×EXPO 2027機運醸成イベント「中学生が描く、50年後のワクワクする未来」参加者アンケート	地域振興課	中学生（3人）	令和8年1月25日	イベント満足度は100%であり、「GREEN×EXPO 2027への関心が高まった」との意見があった。 今後参加したいイベントについて「何かほかのことを絡めたイベント」「みんなで気軽に参加できるイベント」との意見があったので、次年度以降の内容の検討材料として活用した。
6	夏休みPOPづくり大作戦！	地域振興課	中学生（13人）	令和7年7月25日	イベントや企画について提案があった。 次年度以降の実施内容の検討材料として活用した。
7	南本宿公園コミュニティハウスのロゴ制作	区政推進課	小学6年生（16人）	令和7年9月22日	参加児童の新しく整備される南本宿公園コミュニティハウスがどんな場所になってほしいか」という想いを込めて、様々なロゴのイメージを提案してもらった。 そこで提案いただいた、ロゴのイメージから、児童のみなさんの想いをくみ取り、デザイナーがシンボリックなものに再構築し、ロゴデザイン案を3案製作した。その案の中から全校生徒のみなさんの投票により、ロゴを決定した。
8	上白根大池公園こどもログハウスの運営に係る利用者アンケート	地域振興課	小学生、中学生（100人）	令和7年10月	スタッフの対応が「よい」「とてもよい」が9割を占めた。 おいてほしい物について、遊具が一番多かった。卓球のニーズも高く「体を動かす事」を好む利用者がいる事とマンガをおいて欲しいという意見があり「静かに過ごす」ことを好む利用者もいることが分かった。 今後の物品購入計画の参考になった。
9	ジュニアボランティア体験事業	福祉保健課	小学5・6年生（155人）	令和7年7月～令和8年3月	ボランティアを通じて地域のことや地域で活動する人を知るきっかけとなった、乳幼児やご高齢の方、障害のある方と関わる上での知識を学べた、といった感想を受けた。次年度以降の取組の参考としている。

6 区の実組状況(旭区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
10	きらっとあさひプランに係る こどもからの意見聴収	福祉保健課	未就学児～高校生 (5人)	令和7年10月19日	福祉は大切だと思ったといった感想を受けた。 きらっとあさひプラン策定の参考としている。
11	寄り添い型学習支援事業高校 生世代支援イベント	生活支援課	高校生 (13人)	令和7年7月9日 令和7年11月26日 令和8年3月11日	イベントに参加し、「大学生生活のイメージを持て た」、「将来について考えるきっかけとなった」と いった感想で、好評であった。 高校生の関心が高いテーマを把握し、次年度以降の 実施内容の検討材料として活用した。
12	旭区子育て支援連絡会学習会 「居場所を支える みんなの 力」	こども家庭支援課	高校生、大学生 (3人)	令和8年1月7日	ジュニアボランティアやオープンキャンパスでこど も食堂を知ったこと、居場所に参加したことがきっか けとなり活動をはじめた。 普段関われない人と関われること、思ったこと言え る雰囲気やみんなで形にできること、純粋に楽しいと 思えることで活動を継続している。

5 区の実施状況(磯子区)

取組 ①

いそごこどもエコフェスタにおける参加者アンケート

【区政推進課】

取組内容

子ども向けエコイベント「いそごこどもエコフェスタ」について、今後のイベントの参考とするため、参加した子供たちを対象にアンケートを実施した。



対 象

主に小学生（177人）

実施時期

令和8年3月20日

主な意見と 活用方法等

楽しかった、環境にやさしい行動をやってみようと思った、という意見が多かった。次年度以降のイベント内容の参考とする予定。

5 区の取組状況(磯子区)

取 組 ②	地域の小学校向け公演 杉劇アート体験塾R7 『真昼の夕焼け』参加者に対するアンケート（磯子区民文化センター） 【地域振興課（磯子区民文化センター杉田劇場）】
取組内容	横浜大空襲の悲劇を、後世に伝える朗読劇『真昼の夕焼け』。 アート体験塾の枠組みで地域の小学校向け公演として開催した。 森東小学校、屏風浦小学校、滝頭小学校の3校が参加した。  A photograph showing a group of about ten people on a stage. One person is standing in the center, gesturing, while others are seated or standing around them. The background is a large blue screen. Photo / 木村 隆一
対 象	小学生（約250人）
実施時期	令和7年9月～19日
主な意見と活用方法等	平和の尊さや戦争の悲惨さについて理解を深め、平和な社会を築くことの大切さを改めて考える機会となった。このため、次年度も平和の大切さについて考え、学ぶことができる企画を検討する。

6 区の取組状況(磯子区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	百彩パネル制作事業におけるワークショップ参加者へのアンケート	区政推進課	小学生(166人)	令和8年2月～3月	磯子の街をもっと知りたいと思った、未来が楽しみ、イラストがすごいと思った、などワークショップを楽しんでもらえた意見が多かった。次年度のワークショップの参考とする予定。
2	いそごこどもエコフェスタにおける参加者アンケート	区政推進課	主に小学生(177人)	令和8年3月20日	楽しかった、環境にやさしい行動をやってみようと思った、という意見が多かった。次年度以降のイベント内容の参考とする予定。
3	子ども向けロビーパフォーマンス参加者に対するアンケート(磯子区民文化センター)	地域振興課 (磯子区区民文化センター杉田劇場)	未就学児等(約30人)	令和7年4月～令和8年3月までの各月1回	気軽に劇場へ来場できることや、家事の合間に演奏を楽しむことが好評であった。また、子ども向けの音楽だけでなく、大人向けの音楽も聴きたいとの意見があったことから、次年度は平日の夜間帯に大人向けコンサートの実施を検討する。
4	中学校の地域文化クラブ推進事業参加者に対するアンケート(磯子区民文化センター)	地域振興課 (磯子区区民文化センター杉田劇場)	中学生(約45人)	令和7年5月17日	少子高齢化に伴い吹奏楽部の運営が難しくなる中、小編成でも演奏が可能な構成で実施されたことは学校現場にとって大変有意義であり、継続を望む意見があった。このため、次年度も継続して演奏指導を実施する予定である。
5	こども文化資源発掘隊2025 竹でいろんな楽器をつくろう！参加者に対するアンケート(磯子区民文化センター)	地域振興課 (磯子区区民文化センター杉田劇場)	小学生、中学生(約60人)	令和7年8月5日	自作の楽器を使って演奏することの楽しさを体験するとともに、上手に演奏することの難しさや工夫の大切さを学ぶ機会となった。このため、次年度も継続して楽器を作る楽しさを体験し、音楽への関心を深める機会を設ける。

6 区の取組状況(磯子区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
6	杉劇にここにこ合唱団ワークショップ参加者に対するアンケート(磯子区民文化センター)	地域振興課 (磯子区区民文化センター杉田劇場)	小学3年生以上(約35人)	令和7年8月17日からワークショップ計12回実施 第9回磯子音楽祭「第九」出演	プロの演奏家と共演できたことが大きな喜びや達成感につながり、音楽ホールという本格的な舞台で演奏した経験に感動したとの意見があった。このため、次年度は区制100周年事業に合わせたイベントへの参加を検討し、演奏成果を発表する機会の充実を図る。
7	杉劇ファンファーレオーケストラ結成記念コンサート参加者に対するアンケート(磯子区民文化センター)	地域振興課 (磯子区区民文化センター杉田劇場)	中学生(約50人)	令和7年8月23日	横浜市初の演奏団体として活動できたことを喜ぶ声や、音楽ホールで演奏できることを楽しいと感じる声が寄せられた。このため、吹奏楽の部活動を支援する取組として、今後も継続して実施する。
8	地域の小学校向け公演 杉劇アート体験塾R7 『真昼の夕焼け』参加者に対するアンケート(磯子区民文化センター)	地域振興課 (磯子区区民文化センター杉田劇場)	小学生(約250人)	令和7年9月19日	平和の尊さや戦争の悲惨さについて理解を深め、平和な社会を築くことの大切さを改めて考える機会となった。このため、次年度も平和の大切さについて考え、学ぶことができる企画を検討する。
9	杉劇☆歌劇団ワークショップ参加者に対するアンケート(磯子区民文化センター)	地域振興課 (磯子区区民文化センター杉田劇場)	小学生、中学生、高校生(35人)	・令和7年11月9日、16日、30日 ・令和8年1月31日(本公演)	上演本番で実際に舞台に立つことができたことを楽しい経験として受け止め、舞台芸術への関心や意欲を高める機会となった。このため、次年度も当館主催事業としてワークショップを継続して実施する。

6 区の取組状況(磯子区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
10	0歳からのちいさなコンサート ～ひよこコンサートVol.49～ "ブリュッセル音楽隊"とクリスマス参加者に対するアンケート (磯子区民文化センター)	地域振興課 (磯子区区民文化センター杉田劇場)	未就学児、小学生、 保護者(250人)	令和7年12月13日	親子で一緒に音楽を楽しむ機会となった一方で、内容が難しかったとの意見もあった。このため、次回からは演奏内容や話す内容を見直し、より多くの来場者が楽しみながら理解を深められるよう改善につなげる。
11	ルロット・オーケストラ 楽器の国のフシギな舞踏会 ～日用品楽器とオーケストラ 奇跡の共演～参加者に対する アンケート(磯子区民文化センター)	地域振興課 (磯子区区民文化センター杉田劇場)	未就学児、小学生、 中学生、大人(260人)	令和8年1月31日	日用品が楽器として活用できることに驚いたほか、演奏後に実際に楽器に触れて演奏を体験できたことが楽しかったとの意見があった。このため、今後も気軽に音楽に親しむことができる機会を提供し、音楽の楽しさを体感できる事業を継続して展開していく。
12	地域の小学校向け公演杉劇 アート体験塾 アウトリーチ公演「雅楽」参加者に対するアンケート(磯子区民文化センター)	地域振興課 (磯子区区民文化センター杉田劇場)	小学生(95人)	令和8年3月18日	和楽器のすばらしさを体験することで、日本の伝統音楽への関心や理解を深める機会となった。このため、次年度も日本の伝統音楽に触れ、その魅力を学ぶことができる機会を検討する。
13	子ども・親子向け自主事業(工作、体験学習、文化活動など) 参加者に対するアンケート(杉田地区センター)	地域振興課 (杉田地区センター)	幼児～中学生(168人)	令和7年6月～令和8年2月	「とても良かった」との感想が多数寄せられた。 参加者の意見を参考に、今後の自主事業の企画・運営に活かしていく。

6 区の取組状況(金沢区)

取 組 ①	地域で実現！金沢子どもの夢プロジェクトにおける参加した子どもからの意見聴取 【地域振興課】
取組内容	地域で実現！金沢子どもの夢プロジェクトにおいて、参加した子どもの感想や気持ちの変化を捉えるため、また次年度の事業の参考にするため、アンケートを実施した。 
対 象	小学生、中学生、高校生（30人）
実施時期	令和7年8月6日（1回目）及び各グループの活動終了後随時
主な意見と活用方法等	「自ら企画し、プレゼンし、実現するという貴重な経験ができてよかった」 「夢プロをきっかけに色々なことにチャレンジできるようになった」 「金沢区を盛り上げるイベントができてうれしかった」などの意見があった。 子どもの提案や意見を受け止め、今後も取組を展開していくことを考えている地域がすでにいくつかある。

6 区の取組状況(金沢区)

取組②	「寄り道×Kanabun」事業での空間構成要素・イメージ作成における保育園児からの意見聴取（同事業での壁画の一部を保育園児が作成）【区政推進課】	
取組内容	喫煙やポイ捨てにより、良くない印象であるとの広聴意見のあった金沢文庫駅西口広場を改善するため、区職員横断プロジェクトを実施し、広場全体を明るく楽しい雰囲気にしてイメージアップを図る方向性とした。子供が楽し気にその場で過ごせる空間とすれば、喫煙者やポイ捨て者も遠慮するだろうと考え、全体デザインにあたり、子供の意見を取り入れることとし、広場近隣の市立金沢さくら保育園に協力を依頼した。 保育園児からの意見聴取結果や、保育園児自身が作成した壁画の一部の絵を活用することにより、デザインを行い、広場全体の改修が完成した。	
対象	保育園児（年長児25人・年中児22人）	
実施時期	・令和7年7月22日（空間構成イメージ意見聴取） ・令和7年9月22日（ポール上イラスト選択意見聴取） ・令和7年10月16日（4歳児描画） ・令和7年11月4日（5歳児描画）	
主な意見と活用方法等	壁画モチーフについては、花、ハート、動物、花火等の意見が出た。ポール上の絵については、植物ジャンルで、イチゴ等4種の絵を選定した。壁画のデザインの一部として、それぞれの園児に花びらの絵を描いてもらった。 子どもたちにとっては、自分たちの意見や具体作業の結果が今後もいつでも壁画として見ることができ、多くの人の目にも触れることとなった。事業に関わった大人としても、子供が喜ぶ空間を作成できたことにより、殺風景でモラルのなかった空間を明るい雰囲気となるイメージアップにつながられた。	



6 区の取組状況(金沢区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	子どもプログラミング教室に参加した子どもからの意見聴取	地域振興課	小学生(54人)	令和7年8月8日	「初めてPCでプログラムができた」「自分で指示をして動いたのが楽しかった」「アレンジができた」などの意見が多かったが、「基本的なことは知っていた」といった意見もあり、募集の際、「入門編」であることを明記した。
2	ジュニアサマー金沢2025に参加したこどもからの意見聴取	地域振興課	金沢区内在住又は在学の小学3～6年生(23人)	令和7年8月23日	「わりばしてっぽうづくりのプログラムが面白かった」という意見が多かったため、令和8年度も継続して実施することとした。
3	音楽振興事業コンサートに参加した子どもからの意見聴取	地域振興課	小学生、中学生(231人)	令和7年12月14日	「各楽器の紹介があつてよかった」「口笛が楽しかった」などの意見があった。 ワークショップでの体験を取り入れることで満足度向上のために活用した。
4	塩田による塩づくり教室における参加者アンケート	地域振興課	小学生(36人)	令和7年9月28日	「塩づくりが大変なことが分かった」「始めてやることが多く楽しかった」等の意見があり、次年度も継続して実施することとした。
5	海苔づくり教室における参加者アンケート	地域振興課	小学生(36人)	令和8年2月8日	「海苔を採取するところからやりたい」等の意見があり、実施する内容の幅を増やすことを検討する。

6 区の取組状況(金沢区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
6	第三次金沢区読書活動推進目標の策定	地域振興課	小学生、中学生(883人)	令和7年10月1日(水)から 令和7年10月31日(金)	小中学校とともに、約7割が本を読むことは「好き」・「なんとなく好き」と回答しており、本を読むきっかけとして回答数が多かったのは、①「良い本、面白い本の情報がある」、②「図書館や学校の図書室が楽しい」だった。また、大きな活字の本や点字の本などを集めたコーナーである「りんごの棚」について尋ねたところ、小中学校ともに、「聞いた(見た)ことがあるがどのようなものかわからない」または「知らない」の回答数が過半数以上だった。 結果について、第三次読書活動推進目標の策定に活用するとともに、今後の事業検討の際にも活用していく。
7	金沢の魅力ふれあい事業の「海の環境学習」における参加者アンケート	区政推進課	小学生(15人)	・令和7年6月1日	「いつまでもきれいな海が保てるように自分ができることを考えたい」「横浜の豊かな自然を今後も残していきたい」といった環境保全や地域の自然を大切にしたいという意見が多くあった。 アンケート結果を踏まえ、こどもたちにとって身近な環境問題や地域の自然について主体的に考える機会となるよう、次年度のプログラムへの反映など、改善に取り組んだ。
8	金沢若者ライフデザイン事業の「ライフデザインセミナー」における参加者へのアンケート	区政推進課	高校生(12人)、大学生(事前163人、事後138人)	・高校 令和7年12月15日 ・大学 令和7年12月16日	「将来の選択肢がたくさんあることに気づきました」「将来について具体的に考えるいい機会になりました」など、将来を前向きに考える意見が多くあった。 アンケート結果を分析し、参加者層のニーズに合うように次年度のプログラムへ反映した。

6 区の取組状況(港北区)

取 組 ①	「夏休みなんでも教室/冬休みなんでも教室（外国につながる小中学生の学習支援）に係る参加者アンケート」【港北国際交流ラウンジ】【地域振興課】	
取組内容	大学生を中心とした学生ボランティア団体「Youth国際なんでも教室」と港北国際交流ラウンジが宿題教室を共催している。学生ボランティアから、開催前には事前研修に対する感想をアンケートで集め、開催後には振り返りミーティングとアンケートを通じて気づきや今後の教室運営などに対する意見を聴取した。	
対 象	高校生、大学生（50人）	
実施時期	・ 令和7年8月8～10日 ・ 令和7年12月26、27日	
主な意見と活用方法等	より多くの学生が参加しやすいようにするため、開催時期や時間、運営、広報などについて得られた意見を令和8年度の取り組みに反映させた。	

6 区の取組状況(港北区)

取組 ②

港北区地域福祉保健計画策定における小学生からの意見聴取【福祉保健課】

取組内容

区民意見募集の際に、北綱島小学校6年生に対して第5期港北区地域福祉保健計画（ひっとプラン港北）に関する授業を実施し、クラス毎に取りまとめた意見を提出いただいた。



対 象

小学6年生（96人）

実施時期

令和7年8～9月

主な意見と 活用方法等

北綱島小学校6年生の意見から、「既存の取り組みや居場所を活用しながら、ひっとプラン港北の認知度向上に取り組めます。」の文言で計画に反映させた。また、「年齢問わず楽しめる場作りが魅力的なので、第5期以降も続けて欲しい。」や「ボール遊びが許可された公園や日陰で休めるベンチが欲しい」といった意見があった。（区民意見募集）

6 区の取組状況(港北区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	「港北 水と緑の学校」小学校講座に係る受講者アンケート	区政推進課	小学3～5年生 (約920人)	令和7年5月～10月	講座の理解度や活動参加の前後における意識の変化等について意見を収集した。理想の横浜像については、「ごみがなくてきれいな町」、「平和で安全な町」、「自然が豊かで、生き物を大切にする町」などの意見があった。 理解度に関するアンケート結果を踏まえ、次回の講座の企画検討に役立てている。
2	子ども向け脱炭素講座に係る参加者アンケート	区政推進課	小学4～6年生(5人)	令和7年8月6日	イベントの満足度や理解度等について意見を収集した。自由意見では水素ガスへの関心の高さがうかがえた。 理解度に関するアンケート結果を踏まえ、次回の講座の企画検討に役立てている。
3	「港北オープンファクトリー」事業に係る参加者アンケート	区政推進課	小学1～6年生、中学生、高校生(親子約230組)	令和8年3月7日	イベントの感想や印象に残ったこと等の自由意見を収集した。理想の横浜像については「自然豊かで環境に優しい町」、「工業が発展している町」などの意見があった。 アンケート結果を踏まえ、次回の講座の企画検討に役立てている。
4	書道体験教室に係る参加者アンケート	地域振興課	小学1～3生(8人)	令和7年12月20日	アンケートでは「だんだんコツが分かってきた」「終わりの頃には上手に書けるようになった」などイベント参加に対する満足度の高い意見があった。 子どもたちの意見を次回の企画検討に役立てている。
5	小学生スポーツフェスティバルに係る参加者アンケート	地域振興課	小学生(50人)	令和7年7月27日	イベントの感想や次年度を希望する種目について意見を収集した。 収集した意見を踏まえ、「剣道教室」を次年度の実施種目に反映した。

6 区の取組状況(港北区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
6	【菊名コミュニティハウス】 「夏休み福祉体験～不自由から学ぶ」講座に係る参加者アンケート	地域振興課	小学1～6年生(12人)	令和7年7月30日	「実際に不自由があるとどういった困難が発生するのか学んで、身近にいる高齢の方や障害のある方への理解が深まった。」などの意見があった。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容検討に活用した。
7	【菊名地区センター】 「夏のでぬぐい作り」イベントに係る参加者アンケート	地域振興課	小学生(13人)	令和7年7月	「楽しかった」、「初めてだけどうまくできた」などの意見が寄せられた。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容検討に活用した。
8	【菊名地区センター】 「アメリカンクッキーを焼こう」イベントに係る参加者アンケート	地域振興課	小学4～6年生、中学1～2年生(16人)	令和7年8月	「おいしくできてうれしい」「楽しくできた」「家でも作りたい」などの意見が寄せられた。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容検討に活用した。
9	【菊名地区センター】 「親子でリースパン作り」イベントに係る参加者アンケート	地域振興課	小学3～6年生、中学生(6人)	令和7年12月	「楽しくておいしかった」、「またお菓子作りに参加したい」などの意見が寄せられた。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容検討に活用した。

5 区の取組状況(港北区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
10	【港北国際交流ラウンジ】 「夏休み小学生 英語講座 スマイル イングリッシュ」に係る参加者アンケート	地域振興課	小学2～4年生(12人)	令和7年7月 23,25,28,30日と8月1日 計5回	講師や講座内容についての満足度や改善点等について意見を収集し、英会話以外に求めていることとして「外国にルーツのあるこどもと交流できるイベント」が挙げられた。 アンケート結果を講師にフィードバックし、令和8年度と同講座内容に反映させている。
11	【港北国際交流ラウンジ】 「小学生国際理解教室 フィリピンを感じてみよう」講座に係る参加者アンケート	地域振興課	小学生(8人)	令和8年3月26日	アンケート結果より参加型のフィリピンのバンブーダンス体験が大変好評だったため、令和8年度はベトナムのバンブーダンス体験を含む国際理解教室を企画した。
12	【新田地区センター】 「母の日の押し花カード作り教室」イベントに係る参加者アンケート	地域振興課	小学1年生以上(5人)	令和7年4月26日	「楽しかった、また参加したい」「綺麗にできてうれしかった」などの意見が寄せられた。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容の改善に活用した。
13	【新田地区センター】 「夏休みこどもチョークアート教室」イベントに係る参加者アンケート	地域振興課	小学1～6年生、中学生(10人)	令和7年7月26日	「綺麗な作品が出来上がった時、とても嬉しかった」などの意見が寄せられた。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容の改善に活用した。

6 区の取組状況(港北区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
14	【新田地区センター】 「夏休みこどもパン作り教室」イベントに係る参加者アンケート	地域振興課	小学4～6年生、中学生(9人)	令和7年8月19日	「家庭でパンを作る機会がなかなかないので楽しかった」などの意見が寄せられた。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容の改善に活用した。
15	【新田地区センター】 「子ども書き初め教室」イベントに係る参加者アンケート	地域振興課	小学生(10人)	令和7年12月26日	「先生も優しくったし、綺麗に書けたし、コツも教えてくれて本当によかったです。」などの意見が寄せられた。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容の改善に活用した。
16	【新田地区センター】 「春休みこどもパン作り教室」イベントに係る参加者アンケート	地域振興課	小学4～6年生、中学生(8人)	令和8年3月31日	「家庭でパンを作る機会がなかなかないので楽しかった」などの意見が寄せられた。 アンケート結果を踏まえ、次回の事業内容の改善に活用した。

6 区の取組状況(港北区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
17	【大綱中学校コミュニティハウス】 「こども科学捜査体験講座」に係る参加者アンケート	地域振興課	小学生(17人)	令和7年7月19日	「保護者も一緒に楽しめた参加型講座で、防犯や科学捜査への知識が学べてよかった」などの意見が寄せられた。 今後の開催希望内容を把握することで、次の事業企画に活かした。
18	【大綱中学校コミュニティハウス】 「光るスライム体験講座」イベントに係る参加者アンケート	地域振興課	小学生(8人)	令和7年7月26日	「自宅ではこれだけの材料は集められないので楽しく取り組むことができた」などの意見が寄せられた。 率直な意見を把握することで、今後の開催可否の判断材料とした。
19	【港北国際交流ラウンジ】 「夏休みなんでも教室/冬休みなんでも教室(外国につながる小中学生の学習支援)」に係る参加者アンケート	地域振興課	高校生、大学生 (50人)	・令和7年8月8～10日 ・令和7年12月26、27日	より多くの学生が参加しやすいようにするため、開催時期や時間、運営、広報などについて得られた意見を令和8年度の取り組みに反映させた。
20	港北区地域福祉保健計画策定における小学生からの意見聴取	福祉保健課	小学6年生(96人)	令和7年8～9月	北綱島小学校6年生の意見から、「既存の取り組みや居場所を活用しながら、ひっとプラン港北の認知度向上に取り組めます。」を計画の重点目標内に反映させた。また、「年齢問わず楽しめる場作りが魅力的なので、第5期以降も続けて欲しい。」や「ボール遊びが許可された公園や日陰で休めるベンチが欲しい」といった意見があった。(区民意見募集)

6 区の取組状況(緑区)

取 組 ①	こどものまちづくりイベント「Mini Mini Midori ～『GREEN×EXPO 2027』に向けて～」へ参加した小・中学生及びボランティアの大学生を対象としたアンケート実施 【区政推進課】
取組内容	こどもが主役のミニ社会で、働く楽しさやまちの仕組みを体験できるこどものまちづくりイベントにおいて、次年度の事業内容に反映することを目的に、参加した小・中学生やボランティアの大学生を対象にアンケートを実施した。 アンケートでは、イベントに参加して感じたこと、今後のイベントへの意見・提案などについて回答を求めた。 
対 象	小学生、中学生、大学生（約45人）
実施時期	・ 令和7年9月7日 ・ 令和7年10月8日
主な意見と活用方法等	「いろいろな人と関わりながら仕事ができたのしかった」「自分が住むまちをよくするための活動をしたい」「次年度もイベントに参加したい」との意見が多かった。大学生からは、運営体制に対する意見もあった。 アンケート結果は次年度のイベント企画検討に活用する。

6 区の取組状況(緑区)

取組②

みどりサンプラプロジェクト2025における実施内容への意見反映

【地域振興課】

取組内容

未就学児や小学生が、大学生とともに地域清掃や環境について学べるお楽しみ企画（ごみ分別ゲーム等）を行う「みどりサンプラプロジェクト2025」を開催。

実施にあたっては、打ち合わせを通して大学生に企画内容を検討してもらい、その内容をイベントに反映させた。



対 象

大学生（24人）

実施時期

令和7年12月14日

主な意見と 活用方法等

未就学児・小学生でも楽しみながら環境活動に触れられる内容として、環境かるた作り、環境ビンゴ、ごみ分別ゲームが提案され、実際にイベントで行った。

6 区の取組状況(緑区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	こどものまちづくりイベント 『Mini Mini Midori ～ 『GREEN×EXPO 2027』に向け て～』へ参加した小・中学生 及びボランティアの大学生を 対象としたアンケート実施	区政推進課	小学生、中学生、 大学生（約45人）	・令和7年9月7日 ・令和7年10月8日	「いろいろな人と関わりながら仕事ができたとのし かった」「自分が住むまちをよくするための活動をした い」「次年度もイベントに参加したい」との意見が多 かった。大学生からは、運営体制に対する意見もあった。 アンケート結果は次年度のイベント企画検討に活用す る。
2	「緑区民まつり2025」来場者 への横浜グリーンエキスポに 向けたメッセージ募集	区政推進課	制限なし（全体で 約120人） ※模造紙にはふり がなを振り、こど も向けには職員か らも説明を行った。	令和7年10月19日	「たのしみ」「トウクトウクに会いたい」「花が だいすき」「桜とひまわり見たい！」などの意見があっ た。 区ウェブページに掲載するとともに、今後、区で行 う機運醸成イベントへの参考とした。
3	みどりサンプラプロジェクト 2025における実施内容への意 見反映	地域振興課	大学生（24人）	令和7年12月14日	未就学児・小学生でも楽しみながら環境活動に触れられ る内容として、環境かるた作り、環境ビンゴ、ごみ分別 ゲームが提案され、実際にイベントで行った。
4	「トンボ先生と学ぼう！夏休 みわくわく昆虫観察会」での 子どもへのアンケート実施	地域振興課	小学生（12人）	令和7年7月23日	イベントに参加した理由や夏のイベントであつたら いいと思うものをアンケートを通して把握し、「生き 物」に関するニーズが高かったため、次年度も引き続き 「生き物」に関連したテーマの青少年向けイベントを企 画した。
5	東京科学大学共催による「わ くわく科学実験教室2026」の 実施	地域振興課	大学生（7人）	令和8年2月23日	小中学生が楽しみながら学べる実験内容をタイトル含 めて提案されたものを、活かしながら企画した。

6 区の取組状況(青葉区)

取組①

青葉区「GREEN×EXPO 2027」PRプロジェクト【区政推進課】

取組内容

若年層に向けた横浜グリーンエキスポの機運醸成を進めるため、区内県立高校3校の現役高校生で構成されるプロジェクトチームを立ち上げた。

グループに分かれて、機運醸成に向けた意見・アイデアを出し合ってもらい、開催1年前記念イベントの企画や、オリジナル動画を制作などのPR施策に繋げた。



対 象

高校生（23人）

実施時期

令和7年10月～令和8年3月

主な意見と活用方法等

開催1年前記念イベントのスタンプラリーについて、「スタンプラリーの台紙に、花や木、動物を使うと環境のイメージにつながるのではないか」という意見を台紙のデザインに反映した。

「SNSで動画を放映すれば若者へのPRになるのではないか」という意見を踏まえ、高校生にオリジナル動画を制作いただき、区公式SNS「あおばGREENDAY」で配信した。

「動画には、トウクントウクを登場させたり、コントの要素を入れると面白い」という意見を踏まえ、動画に反映した。

6 区の取組状況(青葉区)

取組②

あおば未来プロジェクトにおける区長への政策提言【こども家庭支援課】

取組内容

区内青少年の地域活動拠点が行う区内中高生の「あおば未来プロジェクト」において、年間を通して青葉区の課題とその解決策について調べた結果を区長へ報告してもらった。



対 象

中学生、高校生とそのサポートをする大学生（24人）

実施時期

令和7年5月～令和8年3月

主な意見と活用方法等

「未来の青葉区について考える」「青葉区内の交通の危険箇所についてMAP化」「誰もがスポーツを楽しめるイベントの開催」「中高生の放課後の居場所」について報告があった。
区局の所管課に報告内容を共有し、各事業の参考とする。

6 区の取組状況(青葉区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	青葉区「GREEN×EXPO 2027」PRプロジェクト	区政推進課	高校生（23人）	令和7年10月 ～令和8年3月	開催1年前記念イベントのスタンプラリーについて、「スタンプラリーの台紙に、花や木、動物を使うと環境のイメージにつながるのではないか」という意見を台紙のデザインに反映した。 「SNSで動画を放映すれば若者へのPRになるのではないか」という意見を踏まえ、高校生にオリジナル動画を制作いただき、区公式SNS「あおばGREENDAY」で配信した。 「動画には、トウキョウトウキョウを登場させたり、コントの要素を入れると面白い」という意見を踏まえ、動画に反映した。
2	美しが丘公園こどもログハウスにおける利用者アンケート	地域振興課	未就学児、小学生、中学生（約120人）	令和7年11月	ログハウスでのイベントについて、「身体を動かせる企画」「季節行事の実施」「工作・アクセサリー作り」などの要望が多く寄せられた。 これらの意見を踏まえ、体操教室、かけっこ教室、ラグビーボール体験、クリスマスイベント、ビーズストラップ作り、フラワーカップ作り、スライム時計作りなどを令和8年度を中心に計画し、利用者ニーズを反映した事業展開に活用している。
3	青葉区民読書活動推進目標の策定に係るアンケートの実施	こども家庭支援課	区内小中高等学校の図書委員、青少年の地域活動拠点に参加する中高大学生（54人）	令和7年6月19日 ～7月25日	読みたい本は80%以上が小説で、本の読み方は70%が実際の本、電子書籍5%との結果だった。 令和8年度の青葉区読書活動推進事業での参考とする。

6 区の取組状況(青葉区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
4	あおば未来プロジェクトにおける区長への政策提言	こども家庭支援課	中学生、高校生とそのサポートをする大学生（24人）	令和7年5月 ～令和8年3月	「未来の青葉区について考える」「青葉区内の交通の危険個所についてMAP化」「誰もがスポーツを楽しめるイベントの開催」「中高生の放課後の居場所」について報告があった。 区局の所管課に報告内容を共有し、各事業の参考とする。
5	公園遊具の投票による選定	青葉土木事務所	小学生、近隣住民（全体で134人）	令和7年2月25日	公園の利用者（大人も含む）に公園遊具の投票を依頼し、得票数が多かった遊具を採用し令和7年度の公園工事で設置した。

6 区の取組状況(都筑区)

取 組 ①	「こどもたちの健やかな育ちを支える地域づくり事業」の事業化の前提となる、 「放課後等の過ごし方」に関するアンケート実施 【区政推進課、地域振興課、こども家庭支援課】
取組内容	「学齢期のこどもの居場所」に関する実態を把握し、事業検討に活かすため都筑区内の小中学生を対象にアンケート調査を実施した。アンケートでは、放課後などの過ごし方や、どのような場所で過ごしたいか、などについて回答を求めた。 
対 象	小学3～6年生、中学生（アンケート回答者3,040人）
実施時期	令和7年6月16日～6月30日（15日間）
主な意見と活用方法等	63.9%の小中学生から「普段過ごしている居場所以外の居場所が欲しい」との回答があり、こどものニーズを確認することができた。また、「欲しい場所は、どんな場所か」という設問について、「1人でいられる場所」、「友だちといられる場所」、「ほっとできる場所」など、多様な居場所のニーズが確認された。これらを踏まえ、得られた結果をエビデンスの一つとして活用し、地域住民・関係機関等と連携した小中学生の居場所（場・体験機会）充実に向けた取組を事業化した。

6 区の取組状況(都筑区)

取組 ②

第5期都筑区地域福祉保健計画策定に向けた中学校出前授業での意見聴取 【福祉保健課】

取組内容

第5期都筑区地域福祉保健計画策定にあたり、子どもの意見や視点を反映するため、茅ヶ崎中学校（3年生8クラス）において、公民の授業の一環として「地域福祉」に関する出前授業を実施した。生徒自身が、身近な地域を知り「地域福祉」への理解を深めながら、誰もが安心を実感しながら健やかに住み続けられるまちについて意見交換を行った。



対 象

中学生（217人）

実施時期

令和7年7月

主な意見と活用方法等

主な意見として、「今回の授業のように中学生の意見を反映できる場があって嬉しかった」「知らない間に自分たちは多くの人々に支えられていることを再確認することができた」「自分たちがどんなことをしたら都筑区がより良くなるのかを今回よく考えることができてすごくいい機会だった」「「地域」のことを考えるきっかけになった」「地域の活動に参加してみようと思った」などの多くの意見があった。
これらの意見を踏まえ、第5期都筑区地域福祉保健計画に反映した。

6 区の取組状況(都筑区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	ecoチャレ2025におけるエコチャレンジ宣言	区政推進課	小学生(43人)	令和7年11月29日	イベントをきっかけに新たに実践しようと思った『環境にやさしいこと』は何かを確認する設問項目において、身近で継続しやすい行動に関する回答が多く見られた。これらを踏まえ、今後の普及啓発における取組の検討に活用した。
2	緑のカーテンづくりアンケート	区政推進課	小学生(118人)	令和7年11月～12月	緑のカーテンづくりが脱炭素行動の一つであることについて、18.6%の児童から「知らなかった」と回答があった。これらを踏まえ、こどもを含めたより多くの人々が、地球温暖化等の環境問題への関心を高められるよう、効果的なPR方法の検討に活用した。
3	東山田中学校キャリア教育「プロに学ぶ～課題解決編～」での意見聴取	区政推進課	中学生(10人)	令和7年12月11日	区で実施している「都筑野菜朝市」について、人通りの多い場所や時間帯での実施がより効果的ではないかとの意見があった。これらの意見を踏まえ、新規事業等の検討に活用した。
4	伝統芸能事業イベント実施における参加者からの意見聴取	地域振興課	小学生、中学生(45人)	令和7年8月9日～31日 (イベントは8月9日)	「今後伝統芸能・文化に関するイベントが開催される場合、どのようなものを体験したいですか(複数選択可)。」という設問では、回答者全体の4割以上が「日本舞踊」を選択した。アンケート結果を踏まえ、翌年度の体験イベントのコンテンツに反映した。
5	はぁとdeボランティア(一部こども青少年局青少年育成課補助事業)における参加者からの意見聴取	地域振興課	小学5・6年生、中学生、高校生(272人)	令和7年6月から8月	地域や社会への理解が深まった、或いは地域の方や異年齢の参加者との交流ができたことを評価する意見が多数であったが、暑さ対策を求める声などがあった。アンケート結果を踏まえ、交流や達成感を得られるような体験プログラム及び熱中症等の暑さ対策に反映した。

6 区の取組状況(都筑区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
6	つづきの丘小学校コミュニティハウス自主事業「つくって遊ぶおもしろ算数教室」でのアンケート	地域振興課	小学生(11人)	令和7年4月14日～ 令和8年3月2日	「さんすうはあまりすきではないけど、このきょうしつはたのしい」など、子どもの素直な感想が確認できた。 これらの感想を放課後キッズクラブに共有し、講座への理解促進に活用した。
7	つづきの丘小学校コミュニティハウス自主事業「子どもアート教室」でのアンケート	地域振興課	小学生(16人)	令和7年4月20日～ 令和8年3月16日	今は楽しいという気持ちがあっても、次回の参加はどちらでもよいなど、教室の雰囲気とは違う意見があった。 アンケート結果を放課後キッズクラブと共有し、今後の改善に係る検討に活用した。
8	都田地区センター・地域ケアプラザでの自主事業におけるアンケート(①こども科学捜査班、②インクルーシブスポーツ体験、③巨大すごろく交流会)	地域振興課、福祉保健課	①小学4～6年生(7人) ②小学6年生(51人) ③小学3年生(72人)	①令和7年7月27日 ②令和8年1月16日 ③令和8年2月4日	都田地区センター・地域ケアプラザで実施してほしいこととして、「料理体験」を希望する声が多くあった。また、施設にあるとよいと思う設備や備品等についても、多様な意見があった。 これらを踏まえ、今後の事業内容の検討や施設運営の参考として活用した。
9	不登校支援「プログラミング・ものづくり講座」での意見聴取	福祉保健課	小学生(2人)	令和7年4月より毎月 第4月曜日	「外出できてよかった」「楽しみができた」「優しい場を作ってくれてありがとうございます」など、同年代の友達と交流する機会となり、この場が目標となっているといった意見があった。 これらの意見を踏まえ、事業の継続実施の検討に活用している。

6 区の取組状況(都筑区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
10	「ステキアートをみつけよう！」での意見聴取	福祉保健課	小学生、中学生(5人)	令和7年6月より毎月第4日曜日 全6回(10月12月2月休み)	「自分にもできた!」「楽しい」「うれしい」「また来たい」などの意見があった。また、こどもたちが活き活きと作り上げ達成感を感じている様子で、子ども同士安心して関われる場、障害児をもつ保護者同士の情報交換や居場所にもなっており、上記のような喜びの声も確認された。これらを踏まえ、事業の継続実施の検討に活用した。
11	第5期都筑区地域福祉保健計画策定にかかる区民意見募集	福祉保健課	制限なし(うち18歳未満:6人) ※イラストを多く使用し、こどもにも分かりやすい表現に努めた	令和7年10月1日～31日	「イベントなどがもう少しふえるとより、協力できて、つづきあいになっていくと思います!(盛り上がると思う)」などの意見があった。これらの意見を踏まえ、第5期都筑区地域福祉保健計画に反映した。
12	第5期都筑区地域福祉保健計画策定にかかる中学校生徒会との意見交換	福祉保健課	中学生(6人)	令和7年10月21日	主な意見として、「小学生に比べると行動範囲は広がるけれど、まちを知る機会は多くない」「近所の人とは挨拶をする程度」「祭りや行事の情報は、自分たちには届いていない」という声があった一方で、「近隣の人をもう少し知り、交流してみたい」「まちのことをもっと知りたい」「まちの情報はインターネットに掲載されていない事もあるので、掲示板などで入手している」という意見があった。これらの意見も踏まえ、多くの人が気軽に参加できるきっかけづくりや、効果的な情報発信方法の工夫など、具体的な取組内容として第5期都筑区地域福祉保健計画に反映した。
13	横浜市都筑区社会福祉協議会における、ボランティアのコーディネート事業での意見聴取	福祉保健課	中学生、高校生(45人)	通年	「様々な人と関わりをつくるきっかけとなった」「ボランティアを通じて地域のことを知るきっかけとなった」「認知症の方やご高齢の方とお話したり関わったりする上での知識を学べた」などの意見があった。これらの意見を踏まえ、今後の活動内容の検討に活用している。

6 区の取組状況(戸塚区)

取 組 ①	虐待防止啓発（図書館での展示）についてのワークショップ【こども家庭支援課】	
取組内容	保育を学ぶ専門学校生を対象に、職員が児童虐待対応の現状について説明し、学生とワークショップ形式で意見交換を行った。 学生がワークショップをもとに掲示物を作成。図書館と連携した児童虐待防止啓発コーナーに掲示物を展示した。 若い世代にも親しみやすく、分かりやすい啓発につなげるとともに、学生が子育て支援について考える一助とした。	
対 象	主に19歳～20歳の専門学校生（5人）	
実施時期	令和7年10月～11月	
主な意見と活用方法等	特に、「若い世代が見やすく、親しみを感じられるデザインが良い」「飾りつけをかわいくした方が良い」といった学生の意見を参考にデザインを工夫した結果、若い世代の関心を引きやすい掲示物となり、児童虐待防止について自然に関心を持ってもらうきっかけづくりにつながった。 学生と協力して制作したことで、若者ならではの感性を生かした親しみやすいデザインや表現を取り入れることができた。	



6 区の取組状況(戸塚区)

取 組 ②	小学校と連携したインクルーシブ遊具の設置【戸塚土木事務所】	
取組内容	平戸小学校と連携し、インクルーシブ遊具について学び、考える授業を全4回実施した。第1・2回の授業では、インクルーシブの考え方や事例、さまざまなインクルーシブ遊具について学んだ。 あわせて、戸塚土木事務所が提示した複数の遊具候補について、それぞれの長所・短所を子どもたちの視点から検討し、意見を集約したうえで、平戸第一公園に設置するインクルーシブ遊具の選定を行った。 第3回の授業では、選定した遊具の設置工事を見学し、工事の過程について理解を深めた。第4回の授業では、地域住民を招いて遊具の設置セレモニーを開催し、児童や地域の方々とともに完成を祝った。	 
対 象	平戸小学校6年生(約40人)	
実施時期	令和7年7月～令和8年2月 (全4回授業：令和7年6月26日、7月16日、令和8年1月27日、2月10日)	
主な意見と活用方法等	授業内で検討した結果、「障がいのある方にとって安心できる空間となるだけでなく、こどもたちにとってもよじ登ったり遊んだりできる空間となること」や、「ジャングルジムのようによじ登る、ぶら下がる、コロコロパネルを叩くなど、多様な遊び方ができること」、さらに「青色が目優しいこと」などの意見が挙がったため、イグルージムを採用した。 3種の遊具の特徴を比較討論し、こども達自身で設置する遊具を決定した。	

6 区の取組状況(戸塚区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	戸塚区公認柏尾川桜並木 テーマソング制作に係る こどもからの意見募集	区政推進課	小学生、中学生 等(約600人)	令和7年3月25 日～令和7年5 月23日	児童からは、家族や友人との思い出、桜の美しさ、将来に残したいという願い等の意見が多く寄せられた。 これらの意見をテーマソングの歌詞に反映した。
2	虐待防止啓発(図書館での 展示)についてのワー クショップ	こども家庭支援 課	主に19歳～20歳 の専門学校生 (5人)	令和7年10月～ 11月	特に、「若い世代が見やすく、親しみを感じられるデザインが良い」「飾りつけをかわいくした方が良い」といった学生の意見を参考にデザインを工夫した結果、若い世代の関心を引きやすい掲示物となり、児童虐待防止について自然に関心を持ってもらうきっかけづくりにつながった。 学生と協力して制作したことで、若者ならではの感性を生かした親しみやすいデザインや表現を取り入れることができた。
3	寄り添い型生活支援事業 において、課外活動参加 児童・生徒から意見聴収	こども家庭支援 課	小学生、中学生 (5人)	令和7年7月	こどもから「体験できてよかった」「楽しかった」などの意見があり、課外活動がこどもにとって楽しめる居場所となっていることが確認できた。 個別支援の充実の観点から、今後の事業検討に活用する。

6 区の取組状況(戸塚区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
4	選挙に行く？行かない？ 選挙に対する意識調査企画	総務課	大学生（329人）	令和7年5月24日	選挙に行くと思ったきっかけとして「選挙には行くものだ」という教育を受けてきたから」と答える方が最も多く、選挙に行かないと答えた理由として「興味はあるが、誰に投票すれば良いか分からない」と答える方が最も多かった。 また、なにがあれば投票に行くようになるかという質問に対して、「気軽に投票できる環境」と答えた方が最も多かったことから、市全体として「共通投票所の導入」等、より選挙人の方が気軽に投票できる環境を整えていく。
5	小学校と連携したインクルーシブ遊具の設置	戸塚土木事務所	平戸小学校6年生（約40人）	令和7年7月～令和8年2月 （全4回授業： 令和7年6月26日、7月16日、 令和8年1月27日、2月10日）	授業内で検討した結果、「障がいのある方にとって安心できる空間となるだけでなく、こどもたちにとってもよじ登ったり遊んだりできる空間となること」や、「ジャングルジムのようによじ登る、ぶら下がる、コロコロパネルを叩くなど、多様な遊び方ができること」、さらに「青色が目優しいこと」などの意見が挙がったため、イグルージムを採用した。 3種の遊具の特徴を比較討論し、こども達自身で設置する遊具を決定した。

6 区の取組状況(栄区)

取組①

幼児用遊具の選定における幼稚園児からの意見聴取【栄土木事務所】

取組内容

上郷六反町公園の幼児用遊具の更新にあたり、公園の利用者を代表して近隣幼稚園に通う園児から、どの遊具で遊んでみたいか、シールを貼る方法で意見聴取した。



対 象

幼稚園児（約250人）

実施時期

令和7年9月16～26日

主な意見と活用方法等

3基の遊具の候補について資料を提示し、一番人気のあった遊具を公園の施設改良工事の設計時に採用した。
採用された遊具は令和8年度に施設改良工事で設置を行う予定。

6 区の取組状況(栄区)

取組②

キッチンカーを活用した地産地消の啓発【区政推進課】

取組内容

地産地消の普及啓発を目的として、JA横浜の協力のもと、栄区産・横浜市産の農産物を使用したメニューをキッチンカー等で販売するにあたり、区内小学校と連携し、メニューの考案を行った。メニューの検討においては、児童一人ひとりの考案をもとに、キッチンカーで販売する内容を児童自らが選定した。合意形成の過程を経験することで、多様性を受け入れるとともに、他者を尊重する姿勢を育む機会となった。また、販売に向けた周知方法（チラシ・動画・看板の作成等）についても児童自らが検討するなど、児童の意見や考えを大きく反映する機会を確保した。これにより、メニューを通じた地産地消の取組発信という事業目的の達成につながった。



対 象

小学生（300人）

実施時期

令和7年6月～令和8年3月

主な意見と活用方法等

キッチンカーで販売するメニューは一品料理になってしまうほか、より多くのこどもの意見（メニューアイデア）を採用したいと考えていた中で、JA横浜からの紹介により神奈川大学みなとみらいキャンパス内にあるレストラン「VOYAGE」にて、児童たちの考案したメニューを販売することができた。一品料理に限らず、レストランならではの主菜・副菜を取り入れたセット料理の販売が出来たことで、地産地消の普及啓発の幅が広がったほか、こどもたちの意見の幅をより広げることが出来た。

6 区の取組状況(栄区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	幼児用遊具の選定における幼稚園児からの意見聴取	栄土木事務所	幼稚園児（約250人）	令和7年9月16～26日	3基の遊具の候補について資料を提示し、一番人気のあった遊具を公園の施設改良工事の設計時に採用した。採用された遊具は令和8年度に施設改良工事で設置を行う予定。
2	キッチンカーを活用した地産地消の啓発	区政推進課	小学生（約300人）	令和7年6月～令和8年3月	地産地消の普及啓発を目的として、JA横浜の協力のもと、栄区産・横浜市産の農産物を使用したメニューをキッチンカー等で販売するにあたり、区内小学校と連携し、メニューの考案を行った。 メニューの検討においては、児童一人ひとりの考案をもとに、キッチンカーで販売する内容を児童自らが選定した。合意形成の過程を経験することで、多様性を受け入れるとともに、他者を尊重する姿勢を育む機会となった。 また、販売に向けた周知方法（チラシ・動画・看板の作成等）についても児童自らが検討するなど、児童の意見や考えを大きく反映する機会を確保した。これにより、メニューを通じた地産地消の取組発信という事業目的の達成につながった。
3	青少年指導員と中学生の協働事業「SAKAEヤングフェスティバル事業」における参加者へのアンケート	地域振興課	中学生（72人）	令和8年3月	令和7年度に実施したアンケートでは、地域との交流や地域のつながりを実感したとの意見が複数見られた。 今後設営や運営に対して意見があった場合には、次年度以降の開催時に改善する予定。
4	GREEN×EXP02027PR動画制作	区政推進課	小学生（60人）	動画作成時期：令和7年9月～令和8年2月 動画公開：令和8年3月	授業で栄区の魅力あるスポットやそれを伝える方法について意見を出し合ってもらい、その意見に基づいて動画を作成した。

6 区の取組状況(栄区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
5	＜上郷地区センター＞ こどもログハウス利用にあ たってのアンケート	地域振興課	未就学児、小学生 (96人)	令和8年3月1日～3月 22日	ログハウスはおもしろいかどうかについて、多数が 「少しおもしろい」、どれが一番好きかについては 「滑り台」「吊り輪」、置いて欲しいおもちゃ等につ いては「ぶらんこ」「鉄棒」「迷路」等、イベント希 望については「金魚すくい」「UNO大会」「障害物リ レー」等だった。 可能なものは来年度以降取り入れている。
6	放課後キッズクラブの事業者 再選定のためのアンケート	こども家庭支援課	笠間小、小菅ヶ谷 小、庄戸小、本郷 台小の放課後キッ ズクラブを利用す る児童(約100人)	令和8年2月	「キッズクラブでのイベントやプログラムはたのしい ですか」「キッズクラブはあんしんしていただけるば しょですか」などについて4段階の評価で確認した。 アンケート結果は、運営法人に共有し、今後の運営に 生かしていく。
7	選挙出前授業におけるアン ケート	総務課	小学生、中学生、 高校生(約350人)	・令和7年5月16日 ・令和7年11月25日 ・令和8年2月25日 ・令和8年3月6日	授業後のアンケートでは「若い人が投票に行かないと 困ることがわかった。」「投票のやり方がわからな かったが、実際に体験で来てよかった」などの回答が 多かった。 こどもたちから出前授業のアンケートでは満足度が高 かったため、次年度も継続して同じ内容での授業を行 う予定。
8	栄区寄り添い型学習支援事業 における利用者アンケート	生活支援課	中学生、高校生等 (約30人)	・利用開始時 ・講座参加時 ・年度末 等	「勉強が苦手だったけど自分から勉強しようと思える ようになった。利用してよかった。」「自分の将来に ついてやりたいことがイメージできるようになった」 「自分の思いや考えたことを相手に伝えることができ ようになった」などの意見があった。 意見は利用者の状況や成長度合いに応じた学習支援に つなげている。

6 区の取組状況(栄区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
9	地域と学校との協働等に関するアンケート	こども家庭支援課	小学5年生、中学2年生（約400人）	令和8年1～2月	「地域の行事（お祭り、運動会、交流会など）に参加したことがある児童」は85.3%、「地域の大人たちに見守られていると思う児童」は84.3%だった。 アンケート結果は庁内で共有し、地域福祉保健計画の子ども向けリーフレットにアンケート結果を反映予定。
10	「夏休みわくわく社会科見学」のイベント参加者へのアンケート	区政推進課	小学生4～6年生（62人）	令和7年8月	アンケート結果では、今回のイベントで一番楽しかった・学びになった見学エリアにショールームを挙げた子どもが全体の50%を占め、最も満足度が高いことがわかった。 この結果を踏まえ、今年度はショールームでの見学時間を延長し、展示内容をより深く学べるよう見学プログラムを見直した。
11	「オリジナルマイボトルを作ろう！」のイベント参加者へのアンケート	区政推進課	小学生（15人）	令和8年3月	温暖化対策について学ぶ取組としてSDGsゲームを実施したが、アンケートでは「時間が足りなかった」「内容が難しかった」といった意見が見られた。 この結果を踏まえ、次回は子どもたちがより参加しやすく、楽しみながら学べる内容となるよう、実施プログラムの見直しを行い、別の手法による環境学習の取組を検討することとした。
12	「グリーンリース作り講座」におけるイベント参加者へのアンケート	区政推進課	小学生（35人）	令和7年9月	ワークショップについて大変満足したと回答した人が参加者の100%であったため、令和8年度も継続してワークショップを開催することにした。

6 区の取組状況(栄区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
13	「自然体験教室」におけるイベント参加者へのアンケート	区政推進課	小学生（8人）	令和7年12月13日	イベント内で区内の森づくり団体から自然環境を守っていくことについての講義を行ったが、アンケートで「少し難しかった」との意見があったため、団体にアンケート結果を共有し改善を依頼した。
14	<栄区民文化センター> さかえアートのトビラにあ たったのアンケート	地域振興課	小学生（13人）	・令和7年9月20日 ・令和7年11月8日 ・令和8年1月24日	「もっと、いろいろな場所でこのイベントが知れるようにしてほしいです（地域掲示板など）」「普段家ではなかなかそろえられない材料を思いっきり使って工作をすることができて、貴重な時間になりました」などの意見があった。 頂いた意見をもとに今後イベントを開催する際の広報やイベント構成の参考とする予定。
15	<栄区民文化センター> 横浜市プラットフォーム事業 にあたってのアンケート	地域振興課	小学生（120人）	公田小学校：11月7日 庄戸小学校：12月1 日～3日 本郷台小学校：12月23 日 本郷特別支援学校：12 月5日	「初めてだったけどうまくできた」「友達の考えが知れて楽しかった」「好きな音を探すことができた」「色んな表現があることを知れた」などの意見があった。 頂いた意見をもとに今後イベントを開催する際の広報やイベント構成の参考とする予定。
16	さかえの歴史魅力発信事業 「子ども向け歴史講座」にあ たってのアンケート	地域振興課	小学生（69人）	令和7年7月	ミニ講座がやや長く勾玉の制作時間が不足との意見があったため、今年度は講座時間をや構成を見直し、よりじっくり制作作業に取り組める内容となるよう改善する予定。

6 区の取組状況(泉区)

取組①

第5期泉わくわくプラン（泉区地域福祉保健計画）の素案についての区民意見募集 【福祉保健課】

取組内容

第5期泉わくわくプラン（泉区地域福祉保健計画）の策定にあたって区民からの意見募集を行った。区民意見募集中に泉わくわくプランの関係で小学校で出張授業を行う機会があり、意見募集について周知したところ協力してくれた。



対象

小学6年生（27人）

実施時期

令和7年9月1日～9月30日

主な意見と活用方法等

「スポーツイベントがあるといい」「みんなが交流できる食事会などを開いてほしい」「段差があまりない町にしてみんなが暮らしやすいようになるといい」など、イベントや公園整備・緑化・挨拶やごみ拾い・防犯に関する意見が寄せられた。
泉わくわくプランへの反映・関係各課への共有や推進の参考にした。

6 区の取組状況(泉区)

取組②

いっずんLINEスタンプ作成に係るワークショップ【区政推進課】

取組内容

区内中学校の職場体験プログラムの一環として、区制40周年を記念して作成を検討していた「いっずんLINEスタンプ」のデザインに係るワークショップを実施し、若い世代も使いたくなるようなデザインのアイデアをいただいた。



対象

中学2年生（5人）

実施時期

令和7年11月27日

主な意見と活用方法等

「ありがとう」「ごめん」「かえるよ」等、日常的に使いやすいフレーズを実際のデザインに反映した。

6 区の取組状況(泉区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	泉わくわく応援隊（地域行事を小中学生がお手伝いをする取組）として活動した子どもへのアンケート	福祉保健課	小学4～6年生、 中学生（23人）	通年	応援隊として地域活動のお手伝いを行い、「やりがいを感じた」と答えた方が19人、「少しやりがいを感じた」が4人だった。感想では「面白い」「ボランティアの楽しさを知った」等の意見が寄せられた。 その他、今後参加したい地域行事等を聞き地域へフィードバックしたり、もらえる景品の希望を聞き、参考にしている。
2	区への愛着心向上に向けた効果的な販促物に関するアンケート	区政推進課	未就学児、小学 1～6年生（925人）	令和7年10月17日、 10月18日	「欲しいと思う区のマスコットキャラクターグッズ」について4つの選択肢を設定した結果、いずれのグッズ候補についても一定のニーズがあることが確認され、今後のグッズ展開を検討する際の参考とした。 なお、新規グッズであるミニタオルは令和8年夏より販売を開始している。
3	阿久和川まほろば地区の河川水辺環境の再整備を考える小学生とのワークショップ	土木事務所（下水道河川局との連名）	小学3～4年生 （100人）	【各校3回実施】 1回目：R7.10月 2回目：R7.10月～ 11月 3回目：R8.3月	将来の阿久和川まほろば地区のあり方について、「川の生き物を増やしたい」「きれいな川にしたい」「水辺で休憩したい」など、自然環境や景観、川の利用に関する幅広い意見が寄せられた。 子ども達の意見をもとに整理した「自然」「景観」「安全」「地域」「利用」の5つの視点を、阿久和川まほろば地区の河川環境再整備計画に反映した。

6 区の取組状況(瀬谷区)

取組①

未来へつなごう横浜グリーンエキスポの輪～上瀬谷意見交流会～における児童の意見交換及び実施後のアンケート【区政推進課】

取組内容

横浜グリーンエキスポの開催地に最も近い小学校に通う児童の発案により、横浜グリーンエキスポに関する意見交換会を実施した。児童たちは、自ら区役所の職員へ協力を依頼するとともに、他学年に参加を呼びかけ、意見交換会の企画から当日の進行まで主体的に担った。

当日は、区役所やGREEN×EXPO協会、関係部署も参加する中で開催され、横浜グリーンエキスポに関するアイデアや課題について活発な意見交換が行われ、多くの児童から意見が出された。

意見交換会終了後には、児童自らが作成したアンケートを実施し、その結果を区役所へ届けた。



対 象

小学生（150人）

実施時期

令和7年10月8日

主な意見と活用方法等

「会場周辺のポイ捨てをなくしてきれいな状況を保ってほしい」「夏は暑いので日陰を作った方がいい」「瀬谷の良さを世界に伝えたい」「渋滞が起きると思うので工夫してほしい」「外国人向けに英語の看板を置いてほしい」「花植えやゴミ拾いのボランティアなど、自分たちも手伝う場がほしい」などの意見があった。

横浜グリーンエキスポに関する今後の課題を検討する際の参考とするとともに、関係部署への情報提供を行った。

6 区の取組状況(瀬谷区)

取組②

スーパーキッズボランティア【福祉保健課(横浜市中屋敷地域ケアプラザ)】

取組内容

地域活動やイベント等において、こども達が「参加者」ではなく「地域の担い手」として関わる機会を設けた。活動内容や役割について、こども達から「やってみたいこと」「必要だと思うこと」を聞き取りながら実施した。



対 象

主に小学生（約20人）

実施時期

令和7年4月1日～令和8年3月31日

主な意見と 活用方法等

「受付や案内だけでなく、もっと小さい子と関わる役割をやってみたい」「地域の人ともっと話したい」「ありがとう」と言われると嬉しい」などの意見があった。

意見を踏まえ、こども同士で関われる遊びコーナーやサポート役を取り入れたり、シニアや地域住民と交流できる場を意識的に設けたりしたほか、活動後に振り返りや感想共有の時間を設け、達成感や自己肯定感につながるよう工夫した。

6 区の取組状況(瀬谷区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
1	横浜グリーンエキスポ開催 500日前記念イベント「花× 環境ワークショップ」の企画 参加及び当日のブース運営	区政推進課	中学生、高校生(15 人)	令和7年4月～11月	横浜グリーンエキスポに関心をもってもらうための取組 について、「テーマの1つである環境について、イベント参 加者に楽しく学んでもらうため、結婚式場で使用されたお 花を活用したバスボムづくりワークショップを実施する」と いう意見をふまえ、令和7年11月1日に実施した500日 前記念イベントにて、ワークショップのブースを出店した。 当日はブース運営からワークショップの実施まで中学・高 校生が主体的に取り組んだ。
2	未来へつなごう横浜グリーンエ キスポの輪～上瀬谷意見交流会 ～における児童の意見交換及 び実施後のアンケート	区政推進課	小学生(150人)	令和7年10月8日	「会場周辺のポイ捨てをなくしてきれいな状況を保って ほしい」「夏は暑いので日陰を作った方がいい」「瀬谷の良 さを世界に伝えたい」「渋滞が起きると思うので工夫して ほしい」「外国人向けに英語の看板を置いてほしい」「花植 えやゴミ拾いのボランティアなど、自分たちも手伝う場が ほしい」などの意見があった。 横浜グリーンエキスポに関する今後の課題を検討する際 の参考とするとともに、関係部署への情報提供を行った。
3	「せやまち手しごと市」における ガリバーマップの作成	区政推進課	未就園児、小学生な ど(約25人)	令和8年3月28日	小学校、幼稚園、地区センターなど、身近な施設を挙げて いた。 都市計画マスタープラン(区別方針)を策定する際の参 考とする。

6 区の取組状況(瀬谷区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
4	市長と語ろう！における市長と神奈川県立横浜瀬谷高等学校「未来共創ラボ」(任意団体)との意見交換	区政推進課	高校生(9人)	令和7年12月15日	「日用品をエコなものに変えるなどの取組を行っていききたい」「体感してもらう機会を作るなど、同世代に発信していきたい」「エコを発信することで思いが伝わり、横浜グリーンエキスポに参加するきっかけになるのではないかな」「横浜グリーンエキスポで普段の生活では見られないエコ技術に触れたい」などの意見があった。 ご意見を踏まえ、「STYLE PARTNERS」における、高校生など若い世代との創発機会の確保(脱炭素・GREEN×EXPO推進局)につなげていく。
5	「第三次瀬谷区読書活動推進目標」策定に係る意見聴取	地域振興課	小学生、中学生(204人)	令和7年5月下旬～6月末	みんなが本を読みたくする方法については「本を読んでもスタンプやプレゼントがもらえる」「面白そうな本をすすめてもらう」、本を読もうとするきっかけについては「図書館や本屋で見つけて気になった」「インターネットやSNSで紹介されていて気になった」、どんな本のイベントに行ってみたいかについては「クイズ、ゲーム」「読書ラリー」「読み聞かせなどのイベント」などの意見があった。 意見を踏まえて、年齢別ブックリストの提供・読書スタンプラリーの継続実施、SNS等を活用した情報発信の充実を読書目標に明記した。
6	せやっこわくわくワークの参加者へのアンケート	地域振興課	小学4～6年生(138人)	令和7年6月～11月	アンケートの項目に「そのほかで意見があれば書いてください。(もっとこんなことがやりたい!など)」という項目を設け、「小麦を最初から育ててみたい」「オリーブだけでなく他の植物も育ててみたい」「もっといろいろなことを学びたい」などの意見があった。 意見は次年度の事業内容の検討の参考にした。

6 区の取組状況(瀬谷区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
7	第5期瀬谷区地域福祉保健計画策定にかかるこどもからの意見聴取	福祉保健課	小学生、中学生、高等特別支援学校(326人)	令和7年7月	9割以上からの「やさしい日本語」の素案がわかりやすいとの意見を受けて、完成した計画でも「やさしい日本語」の概要版を作成した。 「計画の大切さがわかった」「自分自身でも取り組んでみたい」と言った意見が多く挙げられており、計画の理解と実際の取組につなげることができた。
8	スーパーキッズボランティア	福祉保健課(横浜市中屋敷地域ケアプラザ)	主に小学生(約20人)	令和7年4月1日～令和8年3月31日	「受付や案内だけでなく、もっと小さい子と関わる役割をやってみたい」「地域の人ともっと話したい」「「ありがとう」と言われると嬉しい」などの意見があった。 意見を踏まえ、こども同士で関われる遊びコーナーやサポート役を取り入れたり、シニアや地域住民と交流できる場面を意識的に設けたりしたほか、活動後に振り返りや感想共有の時間を設け、達成感や自己肯定感につながるよう工夫した。
9	地域の子どもの視点から見た、地域の魅力や課題を反映したガリバーマップ(地域マップ)の作成	福祉保健課(横浜市中屋敷地域ケアプラザ)	未就園児、小学生など(約50人)	令和7年5月30日～6月31日	「公園のここが好き」「暗い道が怖い」「地域の人と話しかけてくれるのが嬉しい」などの意見があった。 意見を踏まえ、地域の魅力発信としてマップに掲載したり、地域の見守りや安全面を考える際の参考意見として共有したほか、地域交流の大切さを再確認する機会となった。

6 区の取組状況(瀬谷区)

	取組名	所管課	対象	実施時期	主な意見と活用方法等
10	障がいのある高校生・20代の若者と、地域住民との交流を目的としたユニバーサルスタイルカフェの企画・運営	福祉保健課 (横浜市中屋敷地域ケアプラザ)	障害のある高校生から20代までの若者(約80人)	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日 (実行委員会)	「演奏発表をしてみたい」「地域の人と話したり交流したい」「自分達も運営側として関わりたい」「緊張しやすいので安心できる雰囲気してほしい」などの意見があった。 意見を踏まえ、トーンチャイム演奏の発表機会を企画内容に取り入れたり、カフェ形式や交流しやすいレイアウトを検討したほか、実行委員として企画段階から参加し、役割分担を行ってもらったり、少人数で話しやすい場づくりや無理なく参加できる進进行を意識した。
11	命を守る思春期応援プロジェクト事業における意見聴取	こども家庭支援課	横浜隼人高校インターアクトクラブ(40人)	・令和7年9月19日 ・令和8年1月16日	中高生が身に付けやすいグッズについて、缶バッジや文具用クリップはどうかとの意見や、明らかに性に関するグッズと分かると身に付けにくい人もいないのか等、中高生の目線での意見が出された。 聴取した意見は、啓発グッズの作成に活用する予定。